神戸市中央卸売市場西部市場
経営展望計画

平成 26 年度

目　　次

Ⅰ　策定の趣旨

(1) 目的 …… P. 1
(2) 目標年次 …… P. 1
(3) 策定の手順 …… P. 2
(4) 経営展望計画の策定経過 …… P. 2

Ⅱ　西部市場の沿革と施設概要

(1) 西部市場・食肉センターの沿革 …… P. 3
(2) 西部市場の施設概要 …… P. 3

Ⅲ　食肉市場の社会的背景

(1) 食肉の需給動向／全国 …… P. 4
(2) 畜産の生産動向／全国 …… P. 7
(3) 食肉の消費動向／全国 …… P. 9
(4) ＴＰＰによる影響の予測 …… P. 13
(5) 生体の集荷動向／全国 …… P. 14

Ⅳ　西部市場の現状把握

(1) 西部市場の位置付け …… P. 16
(2) 西部市場の 10 中央卸売市場との比較検討 …… P. 19
(3) 西部市場の取扱高の動向 …… P. 24
(4) 兵庫県産和牛の動向 …… P. 28
(5) 西部市場の運営 …… P. 30

Ⅴ　西部市場の現状評価と課題の抽出

(1) 西部市場を取り巻く外部環境の評価（機会・脅威の把握） …… P. 32
(2) 西部市場内部の評価（強み・弱みの把握） …… P. 34

Ⅵ　西部市場の経営展望計画

(1) 目指すべき将来像 …… P. 36
(2) 基本戦略 …… P. 38

Ⅶ　行動計画（アクションプラン）について

(1) 行動計画（アクションプラン）の策定について …… P. 39
(2) 策定方法 …… P. 39

参考資料 …… P. 42

Ⅰ. 策定の趣旨

(1) 目的

神戸市中央卸売市場西部市場は、施設竣工から 18 年を経過したが、食肉の公正かつ適正な取引を確保し、神戸市民への安全･安心･高品質な食肉を安定的に供給するという卸売市場本来の役割を果たしている。

しかしながら、近年の消費者ニーズの多様化、生産者及び需給者のニーズの質的な変化、大規模小売業者･外食産業事業者等の広域展開等による流通の広域化により、西部市場を取巻く経営環境は非常に厳しいものとなっている。

農林水産省は、平成 22 年 10 月に『第 9 次卸売市場整備基本方針』を策定し、その中で「経営展望とは中央卸売市場において、開設者及び市場関係業者が一体となって、市場全体の経営戦略的な視点から、それぞれの市場の位置づけ、役割、機能強化の方向、将来の需要・供給予測を踏まえた市場施設の整備、コストも含めた市場運営のあり方等を明確にしたものである。」と示している。

経営戦略的視点からは、少子高齢化社会･人口減少による肉消費総量の縮小、都道府県の食肉生産･出荷方針（県外出荷率の抑制傾向)、ＴＰＰによる関税撤廃による輸入肉へのシフトの可能性など、国内の食肉流通の動向が今後大きな転換期を迎えようとする中で、西部市場の有する独自性と市場優位性を最大限に活かした基本戦略が求められる。

西部市場は、兵庫県産黒毛和牛(全国無二の閉鎖育種による純粋血統を保持する)から生産される国内･海外を問わずトップブランドの評価を得ている『神戸ビーフ』『但馬牛』の流通拠点であり、全国各地から銘柄和牛が集荷され、公正なせり取引のもとで枝肉価格の高値取引が継続されている黒毛和牛に特化した市場といえる。

また、マカオ・タイ・ベトナム・ロシア等への輸出認定を受けた中央卸売市場であり、今後、更なる海外輸出の可能性が期待される。

西部市場が食肉環境の情勢変化に的確に対応し、その機能を十全に発揮していくためには、中央卸売市場としての機能の強化と再構築に取り組みながら、西部市場の将来展望を設定（基本戦略の策定）し、行動に移す体制（行動計画の策定）を明確にする必要がある。

その具体的な活性化策として「神戸市中央卸売市場西部市場　経営展望計画」(以下「経営展望計画」という）を策定する。

(2) 目標年次

計画対象期間は、5 年間とする。

今回策定する経営展望計画は、神戸市中央卸売市場西部市場の 10 年先を見通し、5 年後である平成 31 年度までに達成すべき目標を示すものとする。

(3)　策定の手順

経営展望計画の策定は、以下の手順により策定した。

各団体／ 西部市場 連絡協議会	市場開設者との意見交換

↓

市場開設者	各団体・西部市場連絡協議会の意見等にもとづく 経営展望計画素案の作成

↓

西部市場 専門部会	経営展望計画の検討、策定

専門部会委員構成 10 名　部会長　神戸市中央卸売市場業務運営協議会会長
委　員　神戸市中央卸売市場業務運営協議会委員　４名
西部市場関係団体代表　３名
開設者　２名

(4)　経営展望計画の策定経過

① H26. 4. 1　西部市場専門部会設置
② H26.10.31　第１回　西部市場専門部会開催
（専門部会の前後に連絡協議会へ説明）
③ H27. 1.23　第２回　西部市場専門部会開催
（専門部会の前後に連絡協議会へ説明）
④ H27. 2.13　第 13 回　神戸市中央卸売市場業務運営協議会へ報告

Ⅱ. 西部市場の沿革と施設概要

(1) 西部市場・食肉センターの沿革

大正 9 年 1 月　　市立神戸屠場開場

昭和 40 年 5 月　　神戸市中央卸売市場食肉市場開設

昭和 53 年 3 月　　食肉市場から西部市場へ名称変更

(2) 西部市場の施設概要

表Ⅱ－1

項　　目	内　　容
施　設　名	神戸市中央卸売市場　西部市場
住　　所	神戸市長田区苅藻通7丁目 1-20
開　設　者	神戸市
現施設竣工年	平成 8 年(築 18 年/平成 26 年現在)
構造／規模	鉄筋コンクリート造/地上 3 階建
敷地面積	14,137 ㎡
建物延床面積	15,319 ㎡
処理・収容能力	と畜処理能力:　大動物 100 頭/日, 小動物200 頭/日 けい留所収容能力:　大動物 100 頭, 小動物200 頭

注）大動物：牛, 小動物：豚を示す

【西部市場 位置図】図Ⅱ－1

地図データ Copyright Google, ZENRIN

Ⅲ. 食肉市場の社会的背景

(1) 食肉の需給動向／全国

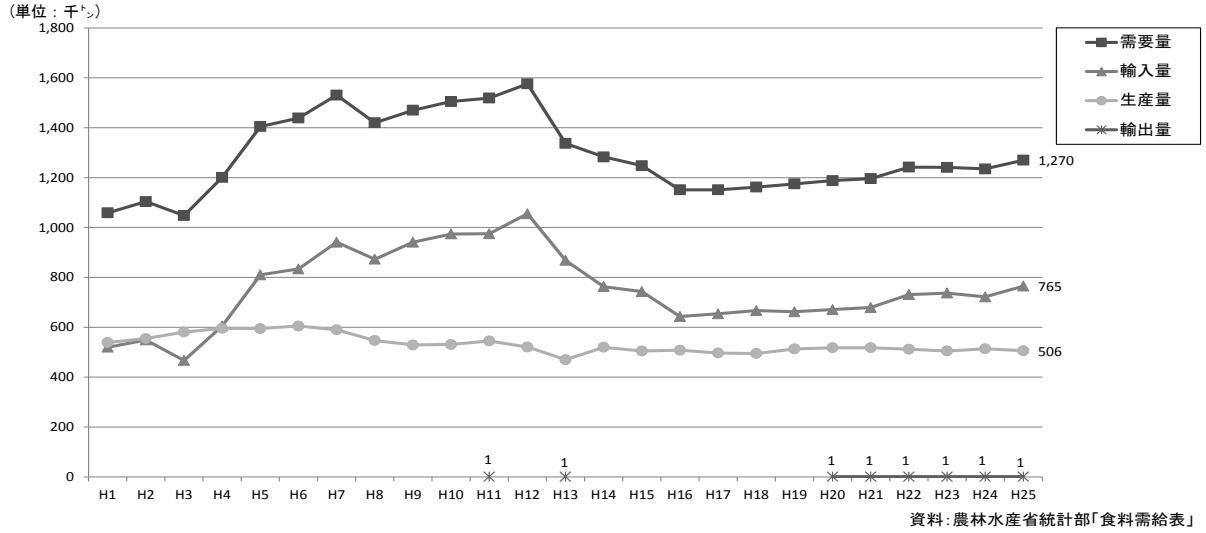
① 牛肉の需給動向

牛肉の国内総需給量は、平成 5 年から 12 年にかけて 140 万トンを超える水準に達していた。平成 13 年に国内で BSE が発生し、平成 15 年に米国で BSE 発生による米国産牛肉輸入停止の影響により平成 17 年まで減少傾向であった。

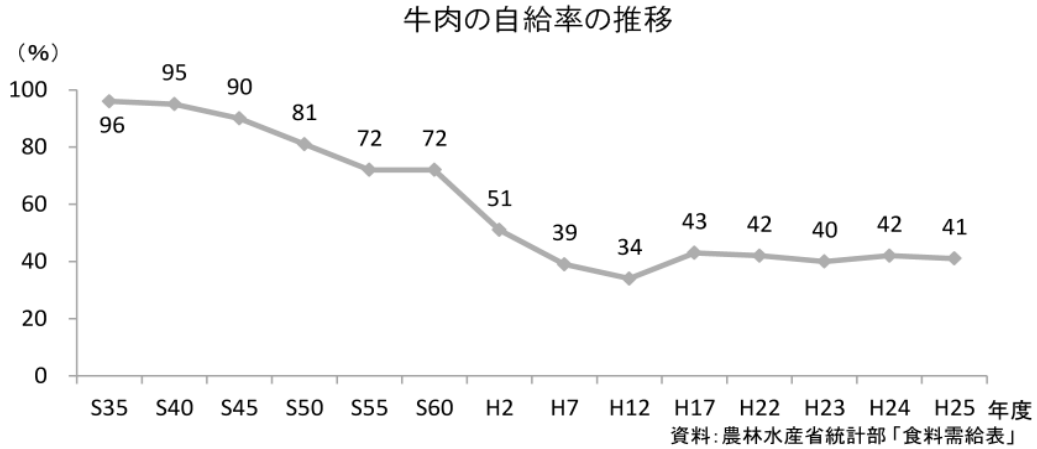
平成 17 年 12 月に米国産牛肉輸入再開により、それ以降は 120 万トン前後をやや微増傾向で比較的安定して推移している。

国内生産量は、同様に平成 13 年に BSE の影響で一旦落ち込んだが、ここ 20 年間、50 万トン前後＜表Ⅲ－1＞の生産量を安定的に維持している。平成 25 年度の年需給量（枝肉ベース）は 127 万トン、国内生産量（枝肉ベース）は 51 万トン、国民 1 人 1 年当たりの供給数量は 6.0kg、自給率は 41%＜表Ⅲ－2＞であり、輸入肉と国産肉の比率は、概ね 6：4 程度＜表Ⅲ－5＞となっている。

一方、牛肉の輸出量は、平成 19 年以降、年々増加傾向にあり、今後海外にマーケットを求める動きが増加しつつあることがうかがえる。（平成 25 年で 915 トン。＜表Ⅲ－7＞国内生産量の 0.3%以下）また、近年は対米等への認定取得の衛生管理基準を満たした新施設が各地で整備計画されており、海外に輸出される良質な和牛の量が今後増大すると予測される。



【牛肉の需給動向の推移（全国）】表Ⅲ－1



【牛肉の自給率の推移（全国）】表Ⅲ－2

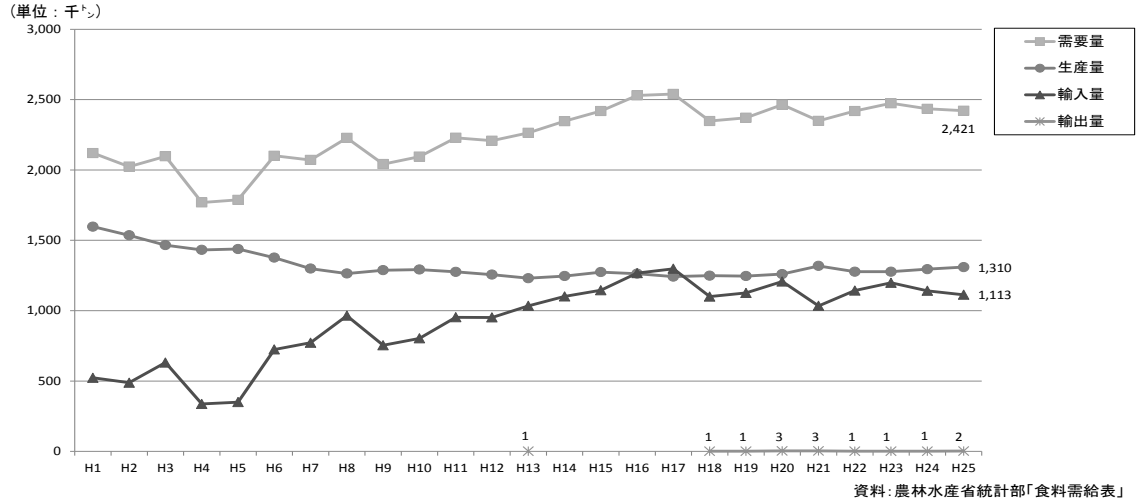
② 豚肉の需給動向

豚肉の需給量は、平成 12 年から 16 年にかけて発生した BSE・高原病性鳥インフルエンザによる牛肉や鶏肉の代替需要として、その取扱量を増加させ、それ以降、安定的に 240 万トン前後を推移している。＜表Ⅲ－3＞

平成 25 年度の年需給量は 242 万トン、国内生産量は 131 万トン、国民 1 人 1 年当たりの供給数量は約 12kg、自給率は 54%＜表Ⅲ－4＞であり、輸入肉と国産肉の比率は、概ね 4：6 程度＜表Ⅲ－6＞となっている。

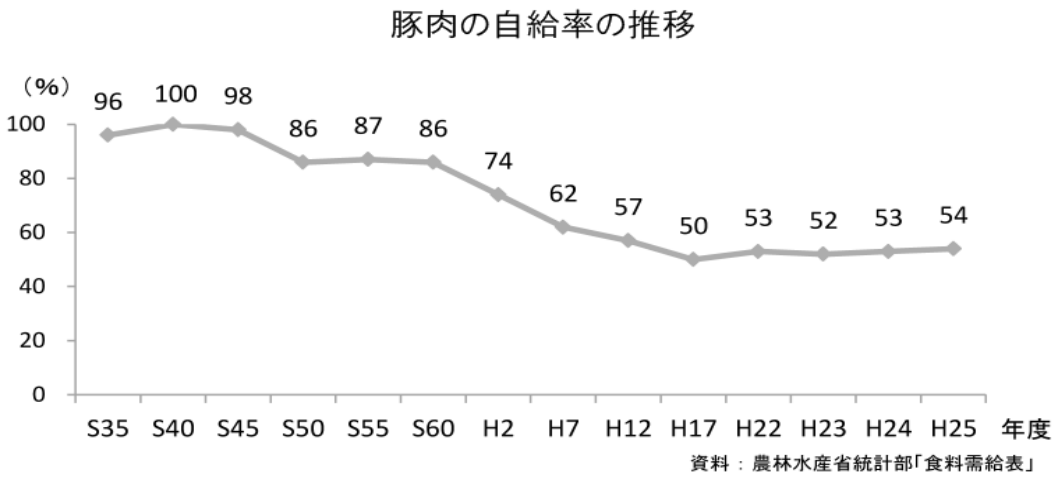
豚肉の生産量は、平成元年を基準とすると微減傾向にあるが、ここ 20 年間は 130 万トンを安定的に推移している。

牛肉、豚肉とも昭和の時代は高い自給率を示していたが、食生活の変遷および食文化の多様化により、国民の肉消費量は年々増大し、それに呼応するように輸入肉が増加していった。
平成の時代に入ってからは、国産肉と輸入肉とがバランスを保って安定的に需給推移している。

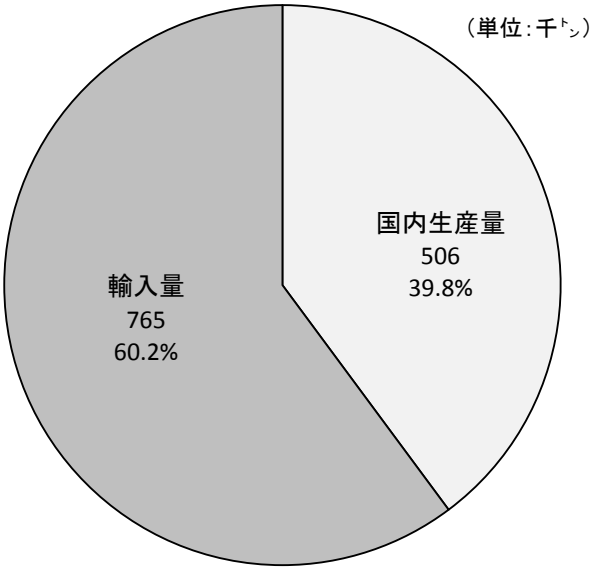


【豚肉の需給動向の推移(全国)】表Ⅲ－3

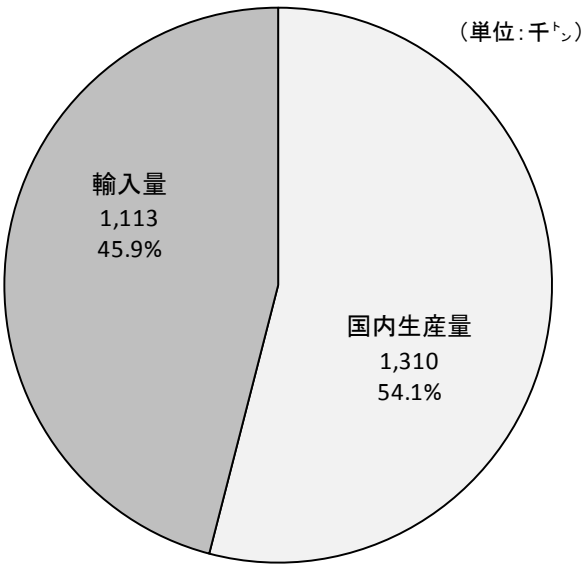
又、豚肉の輸出量は、部分肉ベース 200 トン程度でわずかである。＜表Ⅲ－8＞



【豚肉の自給率の推移(全国)】表Ⅲ－4



【平成 25 年度　牛肉の需給割合】表Ⅲ－5



【平成 25 年度　豚肉の需給割合】表Ⅲ－6

年度	輸出量	
	トン	前年比（%）
平成1年度	—	—
2	7	—
3	37	496.3
4	46	123.6
5	43	93.9
6	48	112.1
7	54	111.4
8	67	124.4
9	85	126.6
10	95	111.8
11	307	323.4
12	69	22.6
13	51	73.6
14	42	82.2
15	46	108.8
16	99	216.5
17	49	50.0
18	99	201.4
19	345	347.1
20	551	159.7
21	676	122.8
22	498	73.6
23	581	116.5
24	945	162.8
25	915	96.8

【年度別 牛肉部分肉ベース輸出量】表Ⅲ－7

年度	輸出量	
	トン	前年比（%）
平成1年度	—	—
2	0	—
3	63	30,235.2
4	77	122.0
5	98	126.6
6	60	60.7
7	52	87.5
8	27	52.5
9	5	18.3
10	18	367.7
11	33	180.0
12	193	582.2
13	369	190.9
14	13	3.5
15	4	31.6
16	9	226.6
17	44	478.2
18	60	135.7
19	104	173.3
20	280	270.0
21	114	40.7
22	154	134.4
23	155	101.2
24	184	118.4
25	283	154.0

【年度別 豚肉部分肉ベース輸出量】表Ⅲ－８

資料：農水省「食肉流通統計」、財務省「貿易統計」、在庫量は農畜産業振興機構調べ

(2)畜産の生産動向／全国

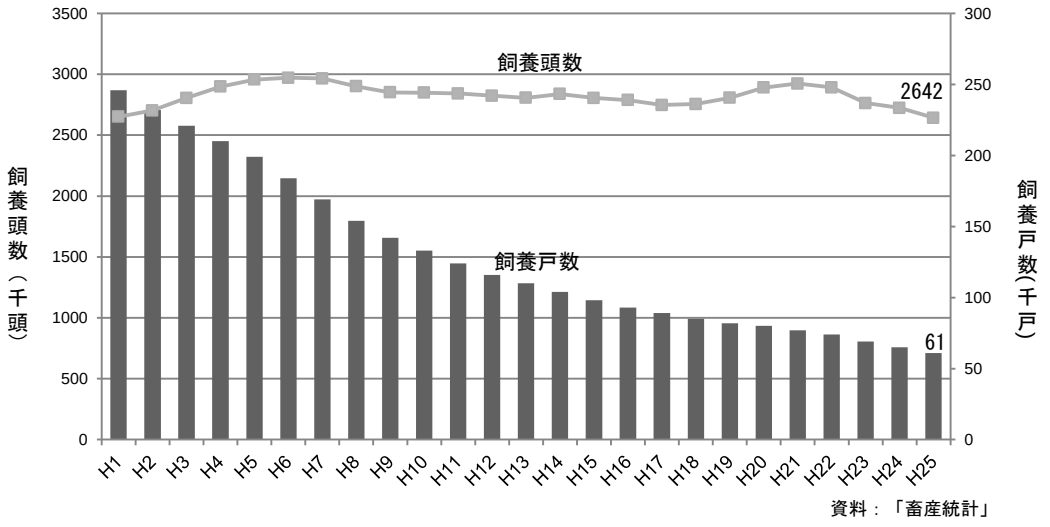
① 牛の生産動向

肉用牛の飼養戸数＜表Ⅲ－9＞は、平成元年の 29 万戸から平成 25 年の 61,300 戸へと、1／5にまで減少している。また、飼養頭数は 250 万頭以上の水準（平成 25 年：2,642,200 頭）であるが近年減少している。一方、１戸当たり飼養頭数は、平成 26 年度は 44.6 頭（兵庫県は 34.4 頭）で、前年に比べて 1.5 頭増加している。

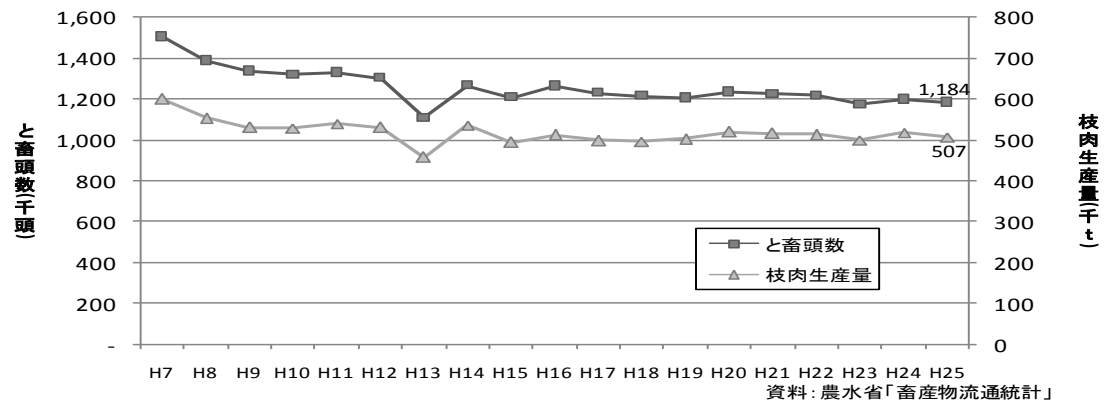
これは小規模畜産農家が減少し、経営規模の大型化が急激に進んでいることを意味しているが、経営の集約化以上に高齢化及び後継者不足による小規模畜産農家の廃業が進んでいると予測され、社会構造の変化への対策が求められている。

なお、近年は１頭当たりの枝肉重量が大型化しており、と畜頭数は微減傾向にありながら、枝肉生産重量は微増傾向にある。＜表Ⅲ－10＞

注）肉用牛の飼養頭数規模別の飼養頭数の構成では、全国飼養戸数の 54%を占める 10 頭未満の飼養農家の飼養頭数合計が 6.1%の全国割合しかないのに対して、全国飼養戸数の 3.6%の飼養(業)者の全国飼養頭数は 52.8%の割合を占めている。



【牛の飼養戸数および頭数の推移(全国)】表Ⅲ－9

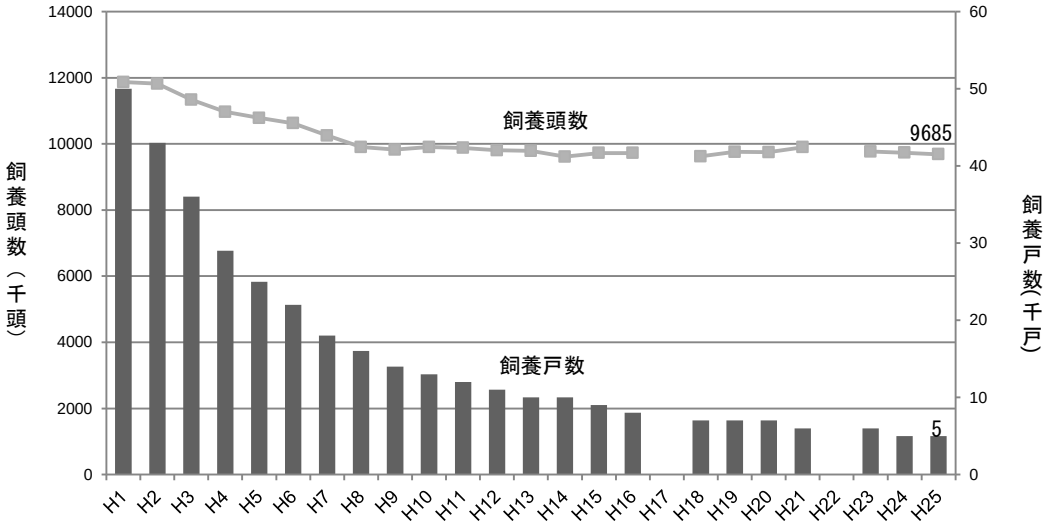


【牛のと畜頭数と枝肉生産量の推移】表Ⅲ－10

② 豚の生産動向

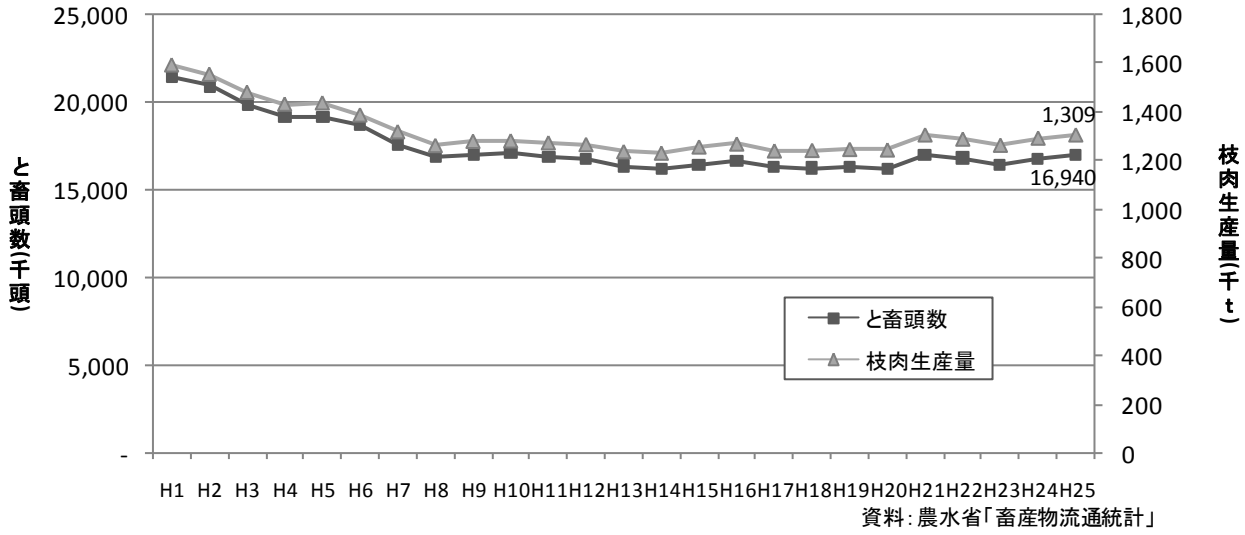
豚の飼養戸数＜表Ⅲ－11＞は、平成元年の 4.9 万戸から平成 25 年の 5,570 戸と 1／10 にまで減少しているが、ここ 20 年間、飼養頭数は約 1,000 万頭の水準（平成 25 年：9,685,000 頭）を概ね横ばいに推移している。これは小規模畜産農家が減少し、経営規模の大型化が牛以上に進んでいることを意味している。

特に、豚の 1 戸当たり飼養頭数は、平成 26 年の全国平均で 1,809 頭（兵庫県は 675 頭/戸）であり、飼養頭数規模別の飼養頭数割合は、7 割以上の飼養頭数が 2,000 頭以上の飼養(業)者で占められている。



注）平成17年度は農業林業ｾﾝｻｽ、平成22年度は世界農業ｾﾝｻｽのため調査を休止　　資料：農水省「畜産統計」

【豚の飼養戸数および頭数の推移】表Ⅲ－11



資料：農水省「畜産物流通統計」

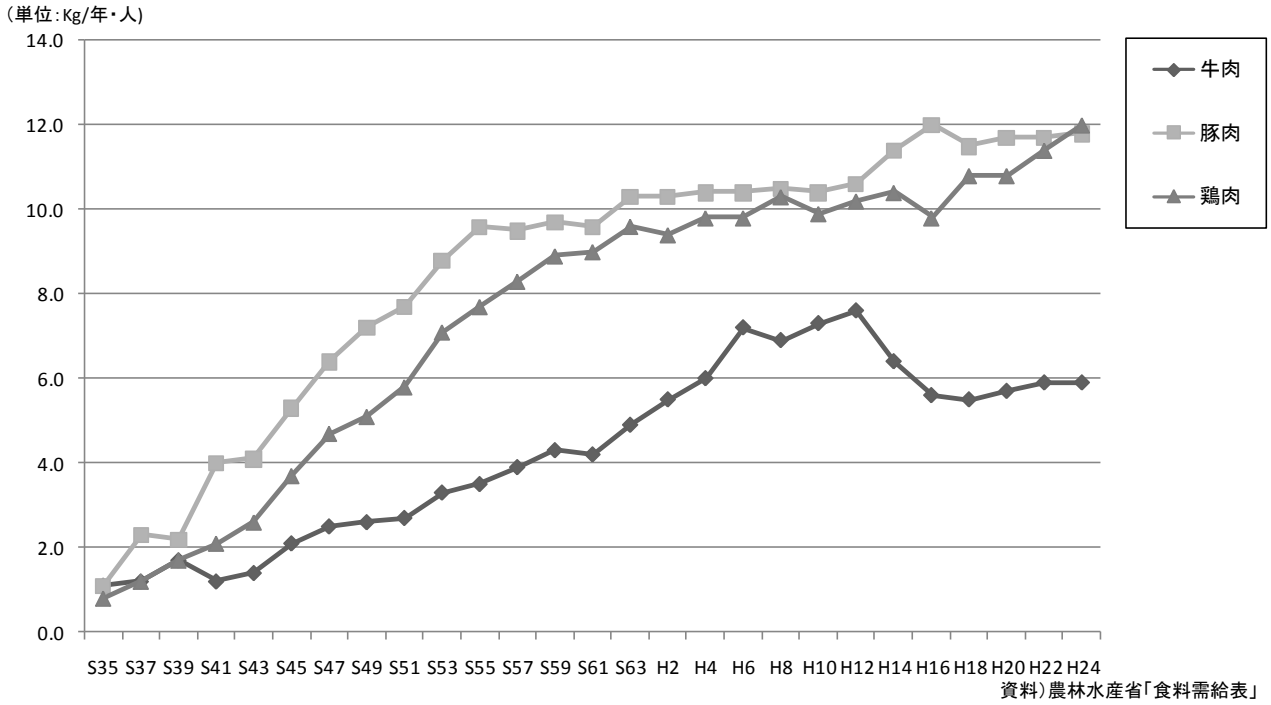
【豚のと畜頭数と枝肉生産量の推移(全国)】表Ⅲ－12

(3)食肉の消費動向／全国

① 食肉消費の推移

家計における食肉の消費の動向について、一人当たりの牛肉消費＜表Ⅲ－13＞については、平成 12 年まで 7kg 台/年･人の消費量であったが、BSE 問題が発生してから大きく落ち込み、現在は 5kg 台/年･人の水準で推移している。一方、豚肉は牛の BSE 問題以降、代替肉として消費量を伸ばし、一人当たり 11kg 台/年･人と増加傾向にあり家計消費に占める比率も高まっている。

一人当たりの食肉消費量は、牛肉・豚肉共、昭和 40 年代に対して約 2.5 倍の消費となっているが、近年は安定的に推移しており、食の肉食化が今後進んだとしても、食肉消費量の大きな増加はないと予測される。



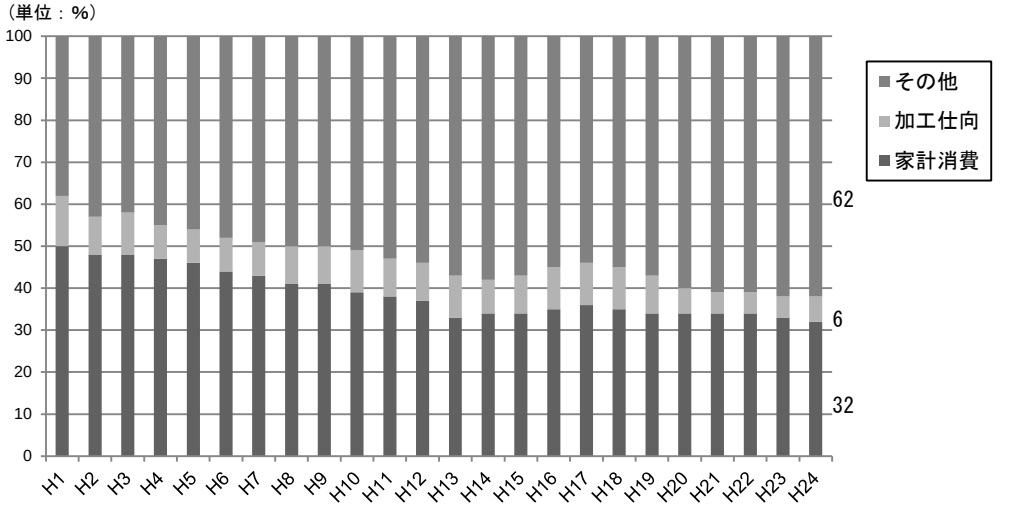
【国民１人・１年当たり食肉供給(純食料の肉重量ベース)】表Ⅲ－13

＜牛肉消費の構成＞

食肉消費の構成割合＜表Ⅲ－14＞について、牛肉は年々家計消費が減少傾向にある一方、外食消費量(表中のその他)が増加傾向にあり、これは全国展開する牛丼チェーン店をはじめ外食レストランで牛肉を愉しむなど、牛肉に対する近年の食志向が見受けられる。

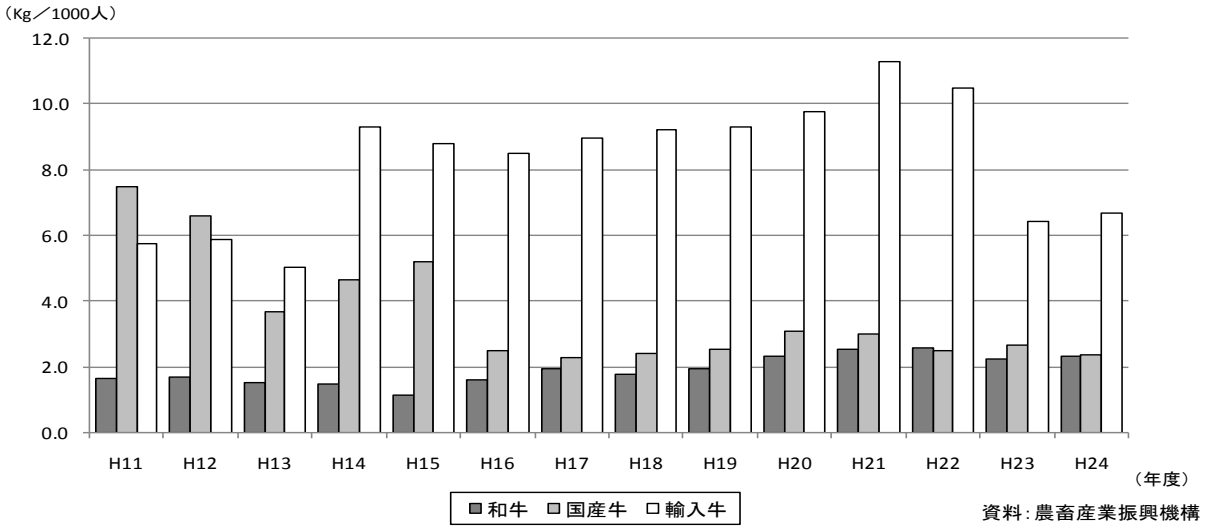
『年度別牛肉の購買状況』＜表Ⅲ－15＞が示す和牛･国産牛･輸入牛肉の年度別推移を検証すると、和牛は比較的安定的(近年は増加傾向)に消費推移しているのに対して、和牛以外の国産牛の消費が大きく落ち込み、それに代わる輸入牛肉が顕著に消費を伸ばしている。

これは、輸入肉の台頭が国産牛肉(和牛以外)の消費に大きな影響を及ぼす半面、和牛は根強く消費者の支持を得ていることを意味している。とりわけ、高級黒毛和牛を主体として取り扱う西部市場は、国際観光都市･神戸に立地し、ブランド牛“神戸ビーフ”の拡販のもとに観光振興と結びついて新しい食文化の発信拠点に成りえる要因を有している。



資料：農水省生産局畜産部食肉鶏卵課

【食肉消費の構成割合(牛肉)】表Ⅲ－14



資料:農畜産業振興機構

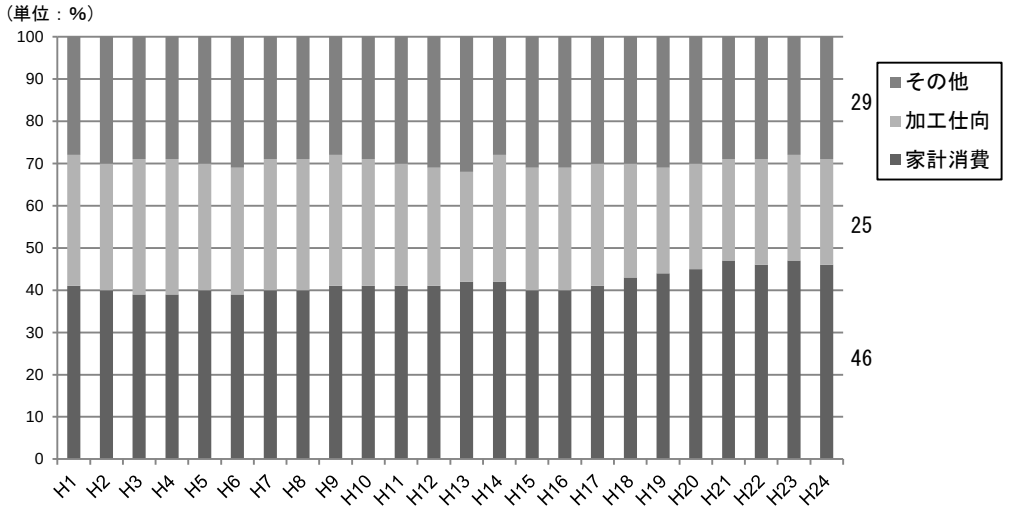
【年度別牛肉の購買状況】表Ⅲ－15

注)表中の kg／1000 人の数値は、全国の主要地区量販店での、レジ通過 1000 人当たりの食肉購買数量(kg)を示している。

＜豚肉消費の構成＞

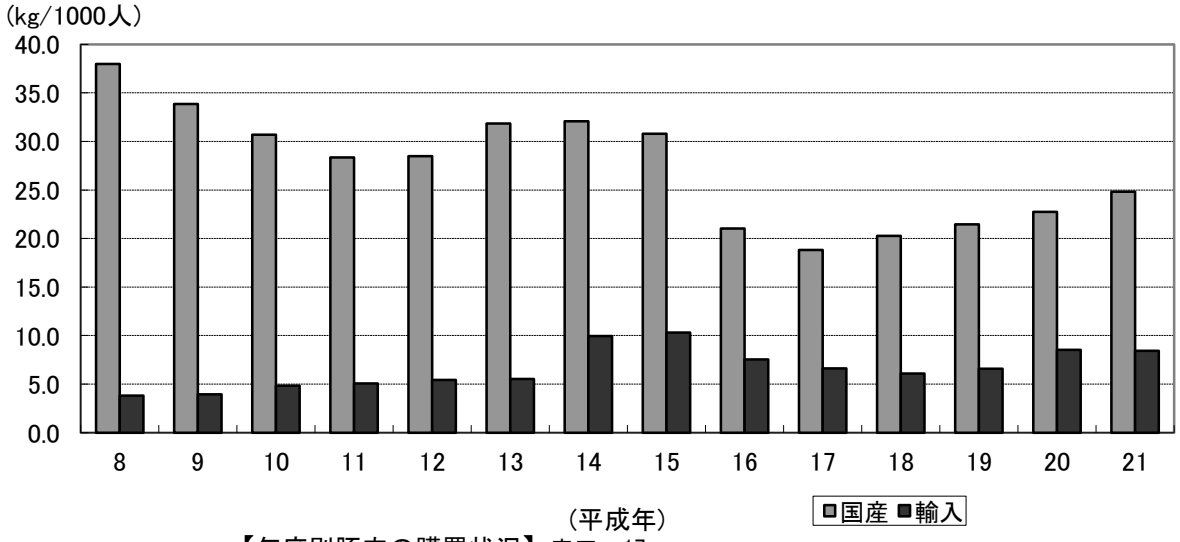
食肉消費の構成割合＜表Ⅲ－16＞について、豚肉の消費は牛肉に比して外食での消費よりも加工食品に取扱われている傾向があり、特に家庭内での消費割合(年々微増傾向)が高いのが特徴である。

また、年度別豚肉の購買状況＜表Ⅲ－17＞からも国産豚肉が輸入豚肉に対して好まれて購買されており、国産豚肉が、各家庭食卓上での主要な食肉の役割を果たしているといえる。



資料：農水省生産局畜産部食肉鶏卵課

【食肉消費の構成割合(豚肉)】表Ⅲ－16



【年度別豚肉の購買状況】表Ⅲ－17

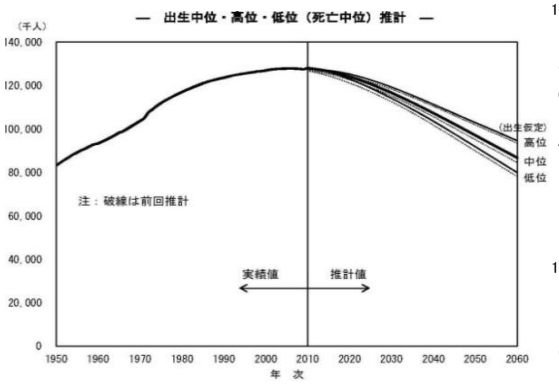
注)表中の kg／1000 人の数値は、全国の主要地区量販店での、レジ通過 1000 人当たりの食肉購買数量(kg)を示している。

② 高齢化と食肉消費量の関係

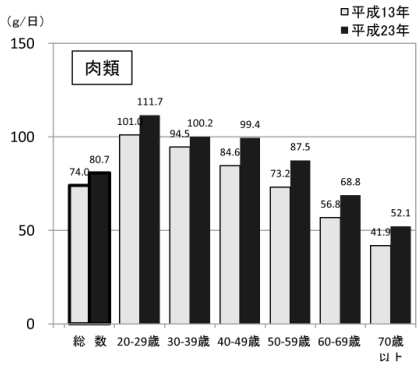
日本の総人口は、2010 年の国勢調査によると 1 億 2800 万人であったが、10 年後の 2020 年には 390 万人減(3%)、20 年後の 2030 年には 1180 万人減(9%)と推定され、人口減少・少子高齢化社会の時代に入っている。＜表Ⅲ－18＞

一方、「国民健康・栄養調査(厚生労働省)」によれば、ここ 10 年間で各年齢階層ともに食肉の消費が増加する「肉食化」の傾向がみられるが、年齢階層が高くなるに従い食肉の消費量は低下している。＜表Ⅲ－19, 20＞

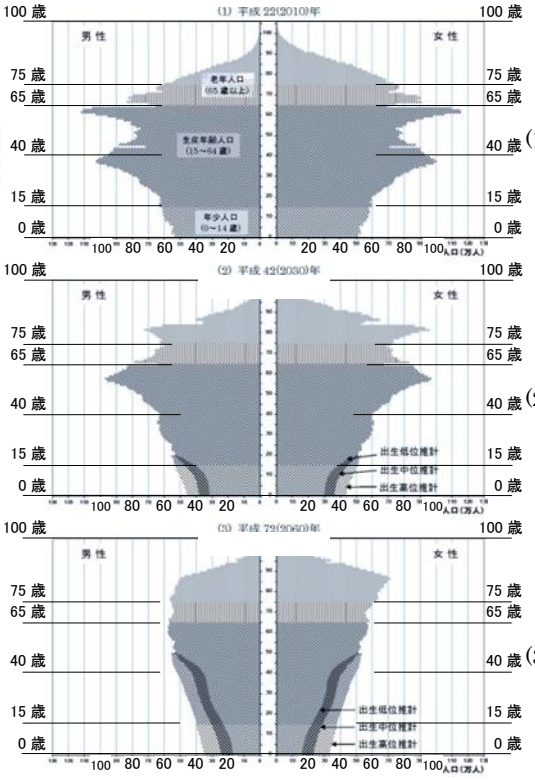
よって、今後の高齢化社会への移行と人口減少社会到来によって、食肉総消費量は緩やかに減少していくと予測される。



【人口推移予測】表Ⅲ－18



【肉類の世代別摂取量の比較】表Ⅲ－19



(1) 平成 22 年 (2010)

(2) 平成 42 年 (2030)

(3) 平成 72 年 (2060)

【将来の年代別構成】表Ⅲ－20

(4) ＴＰＰによる影響の予測

ＴＰＰ(環太平洋戦略的経済連携協定)は、現在、交渉過程にあるため今後の明確な予測は難しく最終結論によってその影響度は異なってくる。

現在は、牛肉(冷凍･冷蔵)には 50%の協定税率が課され、豚肉には 361 円/Kg の関税が課けられている。

仮に、関税 90%の削減となれば、輸入肉と競合する一般市販食肉（牛：3 等級以下）は価格で競争となり、その影響が予想される。

食肉の輸入は主に商社によって担われており、輸入肉が増加しても市場を経由するとは考え難く、卸売市場の取扱高への影響についても注視していく必要がある。

ただし、外国輸入肉のほとんどが、冷凍･冷蔵肉であり、加工向け食肉･外食向け食肉に多用されるので、卸売市場で取り扱う牛、豚の生鮮の枝肉、部分肉販売の需要に依然にして必要とされる。

また、4、5 級の国産牛肉や、高品質な銘柄豚肉は、外国輸入肉と競合することが少なく、卸売市場が取扱う食肉が高級肉にシフトしていく可能性も考えられる。

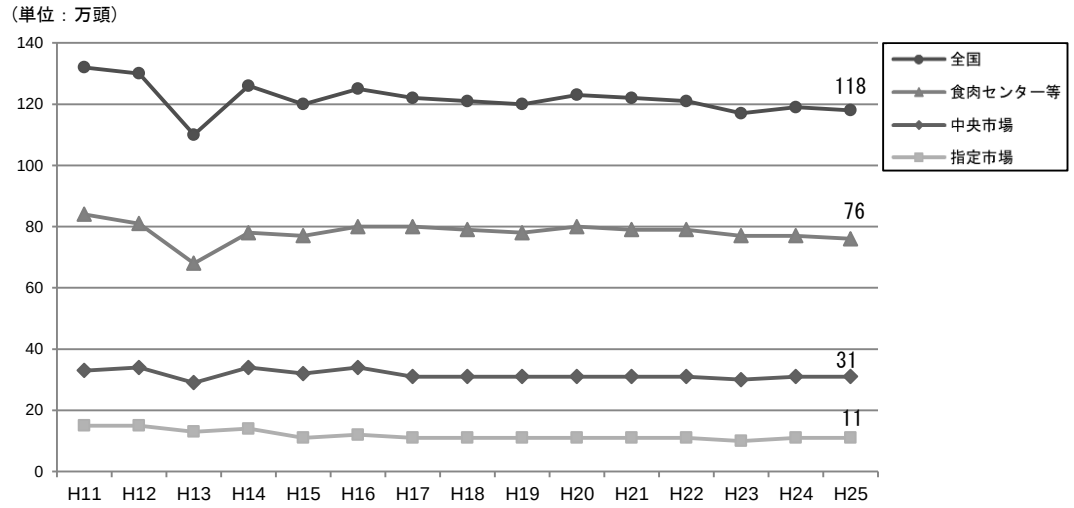
将来の食肉自由化の流れの中で、公正な価格形成の維持と、国内畜産業の育成をはかる上でも、トレーサビリティシステムが確保された安心・安全な食肉を供給する卸売市場の役割は、強く求められる。

(5)　生体の集荷動向／全国

① 牛の集荷と、と畜頭数

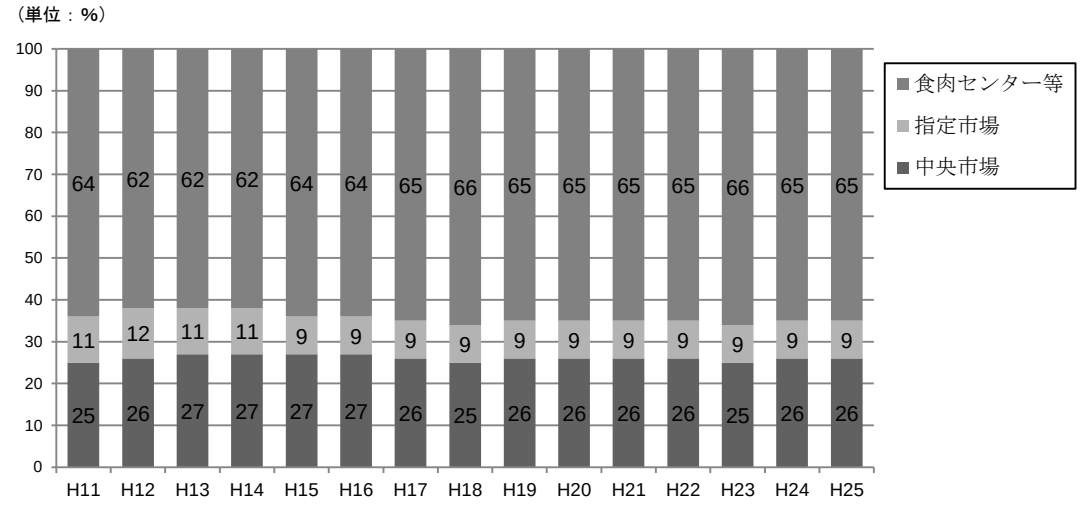
国内畜産牛の集荷と、と畜頭数の動向＜表Ⅲ－21＞は、指定市場のシェアが微減傾向・民間食肉センター等のシェアが微増傾向にあり、中央卸売市場のシェアはほぼ横ばいで推移している。

しかしながら、中央市場と指定市場を足した卸売市場経由率は取扱頭数の 35％で、国内牛肉流通量の 2／3 は、民間食肉センター等で取り扱われている。＜表Ⅲ－22＞



資料：公益社団法人　食肉市場卸売協会
JMMA情報　食肉市場取引実績

【中央卸売市場の取扱頭数の推移(牛)】表Ⅲ－21



資料：公益社団法人 食肉市場卸売協会
JMMA情報　食肉市場取引実績

【全国の取扱頭数に占める中央卸売市場取扱頭数のシェア推移(牛)】表Ⅲ－22

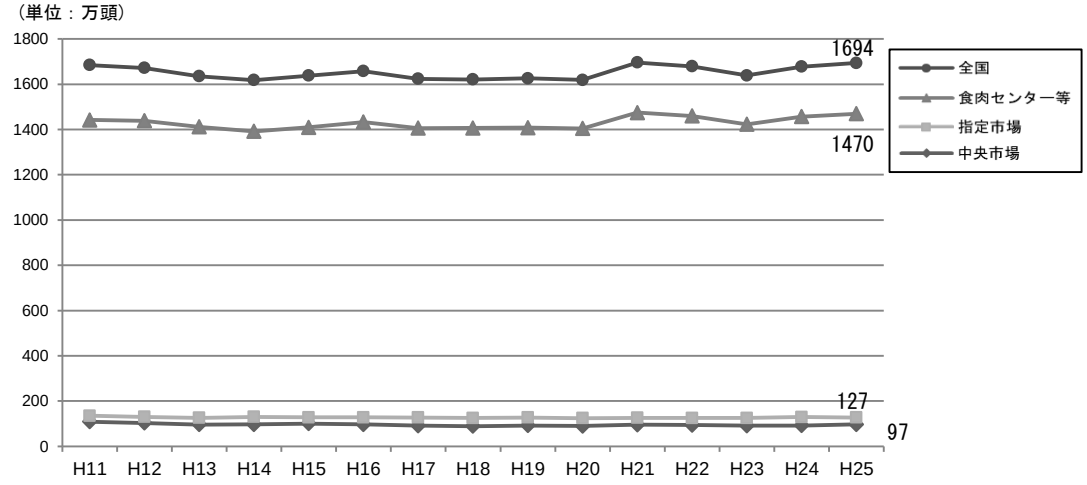
② 豚の集荷と、と畜頭数

国内畜産豚の集荷と、と畜頭数の動向＜表Ⅲ－23＞は、平成元年以降、大きな変化はなく推移している。

ただし、豚は牛に比して、卸売市場経由率は 13%＜表Ⅲ－24＞と非常に低く、国内豚流通は、産地立地型食肉センターや全国展開する民間食品メーカー所有の食肉センターにて大半が取扱われている。

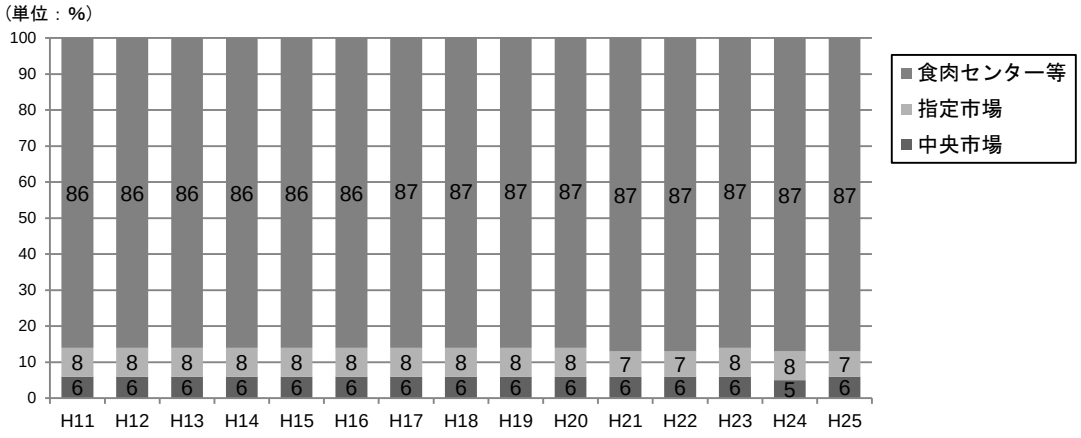
また、卸売経由率 13%のうち、中央卸売市場の割合より指定市場の割合の方が大きいことからも、牛は他府県からの出荷が見込まれるが、豚は地元県内に出荷される傾向があり、豚に関しては中央卸売市場といえども県内畜産豚の振興･育成保護の色合いがある。

北海道や九州など豚産出県では、1 日の豚処理頭数が 1500 頭を超える生産ラインを持つ食肉センターが整備されており、同センター内で部分肉加工まで行って全国の量販チェーンに直送する体制を構築するなど、市場を経由しない食肉流通の傾向がある。



資料：公益社団法人 食肉市場卸売協会
JMMA情報　食肉市場取引実績

【中央卸売市場の取扱頭数の推移(豚)】表Ⅲ－23



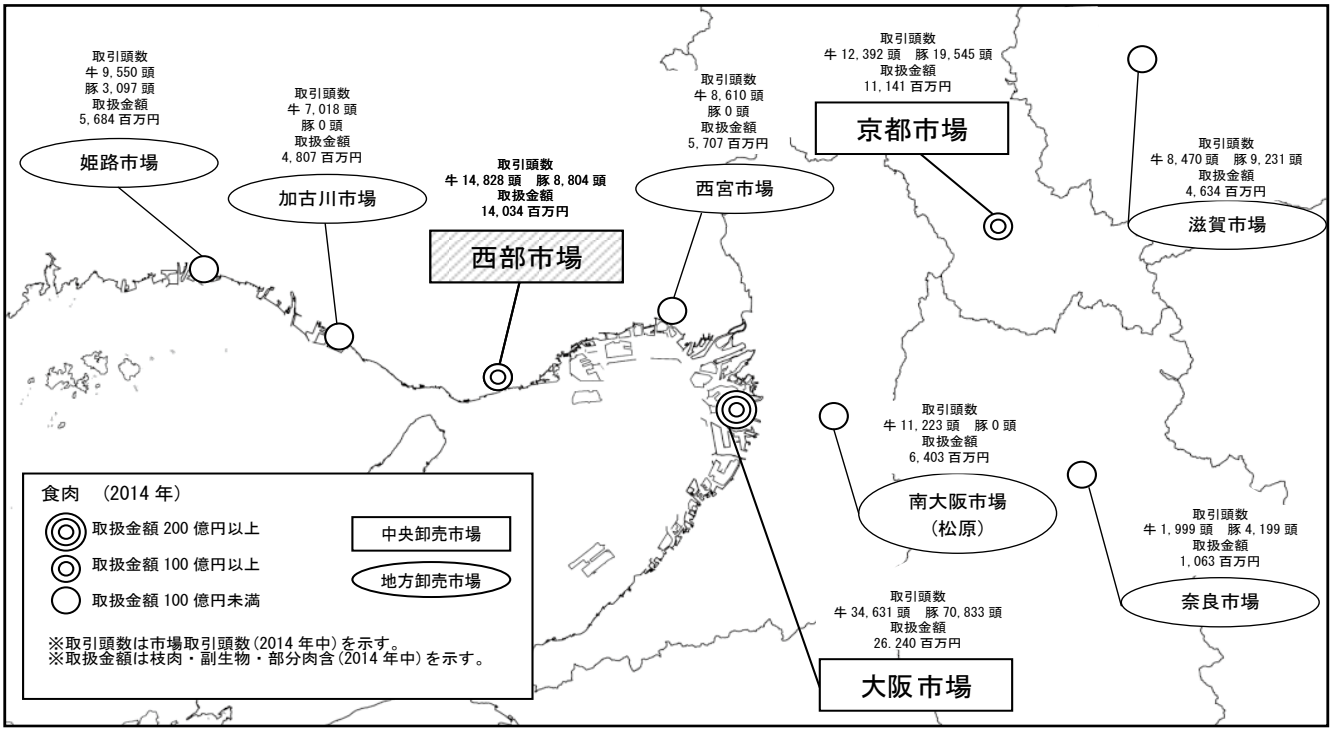
資料：公益社団法人 食肉市場卸売協会
JMMA情報　食肉市場取引実績

【全国の取扱頭数に占める中央卸売市場取扱頭数のシェア推移(豚)】表Ⅲ－24

Ⅳ. 西部市場の現状把握

(1) 西部市場の位置付け

① 近畿圏における西部市場と周辺市場との関係



【神戸市中央卸売市場西部市場の近畿圏における位置づけ】図Ⅳ－1

注）滋賀･奈良市場の取引頭数及び取扱金額は、2011 年の数値を示す。その他の市場は、2014 年の実績値を示す。
参）西宮市場…上記の取引頭数に対して、牛と畜処理頭数は 17,124 頭。豚と畜処理頭数は 45,476 頭。
　　加古川市場…上記の取引頭数に対して、牛と畜処理頭数は 9,735 頭。
出）日本食肉市場卸売協会 HP（食肉市場取引実績）（食肉市場の紹介）

京阪神の都市圏内には、9 か所の公設の食肉市場（その内、兵庫県は 4 ヶ所）が設置されている。＜図Ⅳ－1＞

西部市場は、大阪市場（取引金額；262 億円）に次いで 2 番目（取引金額；140 億円）の取引金額をあげ、京都市場（取引金額；111 億円）を含めて、京阪神の 3 中央卸売市場としての役割を果たしている。

西部市場の取引頭数は、3 中央卸売市場の中で、牛取引頭数（14,828 頭）は、大阪市場（34,631 頭）に次いで 2 番目であるが、豚取引頭数（8,804 頭）は、大阪市場（70,833 頭）、京都市場（19,545 頭）に比べて少ない。

西部市場は、取引頭数に対して取扱金額が、他市場に比べて非常に高いことは、1 頭当たりの取引価格が高い高級肉を主体として取り扱われていることを意味しているが、ブランド肉が求められている要因は、肉質の良さとともに安全への信頼性の高さである。

また、京阪神の 3 中央卸売市場である京都市場は、平成 30 年度新市場完成予定、大阪市場では整備手法の検討がされている。3 中央卸売市場の一画を担う西部市場は、他 2 市場に比べて竣工年度も新しく、早急に建替えを計画することは現実的に難しいが、社会ニーズに応えていくため、当面は、補修、衛生管理の向上により対処していくことが必要である。

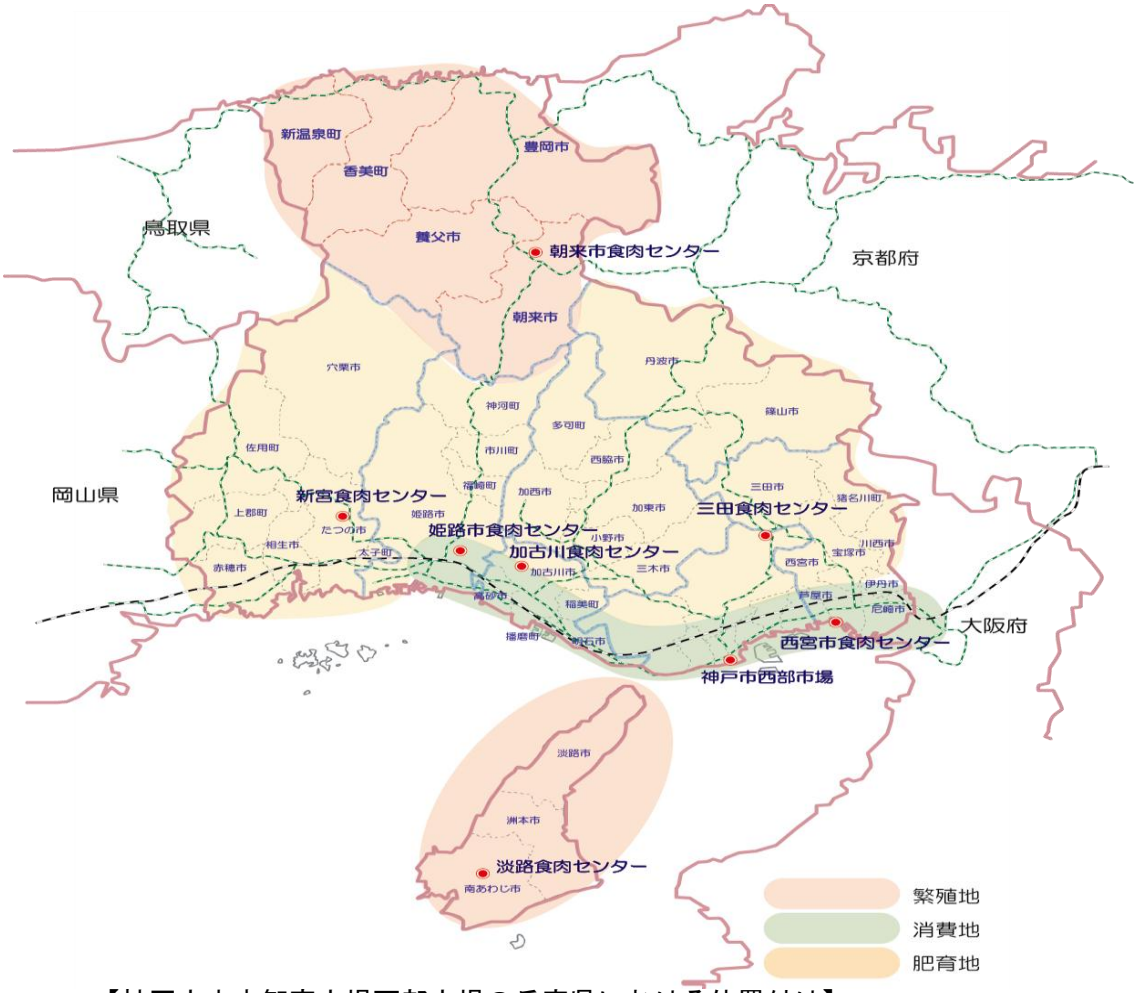
② 兵庫県内における西部市場の関係性

兵庫県は、県内で閉鎖育種による純粋血統を保持し、他県では真似のできない良質な黒毛和牛『神戸ビーフ』『但馬牛』を産出する付加価値を維持している。

県内に８か所の食肉センター＜図Ⅳ－2＞を有し、その地域役割分担に基づいて、各々に繁殖地・肥育地・消費地の拠点として機能している。

その中で、西部市場は、大消費地･神戸市を背景に『神戸ビーフ』『但馬牛』の流通拠点として位置付けられている。

県内他市場では、個人割・相対取引も行われているが、西部市場の取引形態は、せり取引により行われている。



【神戸市中央卸売市場西部市場の兵庫県における位置付け】図Ⅳ－2

しかしながら、昨今、海外での“和牛＝神戸ビーフ”に対する高い評価を受け、戦略的経営の視点から、消費地立地型の各食肉センターは、それぞれ独自の方策を探っている。

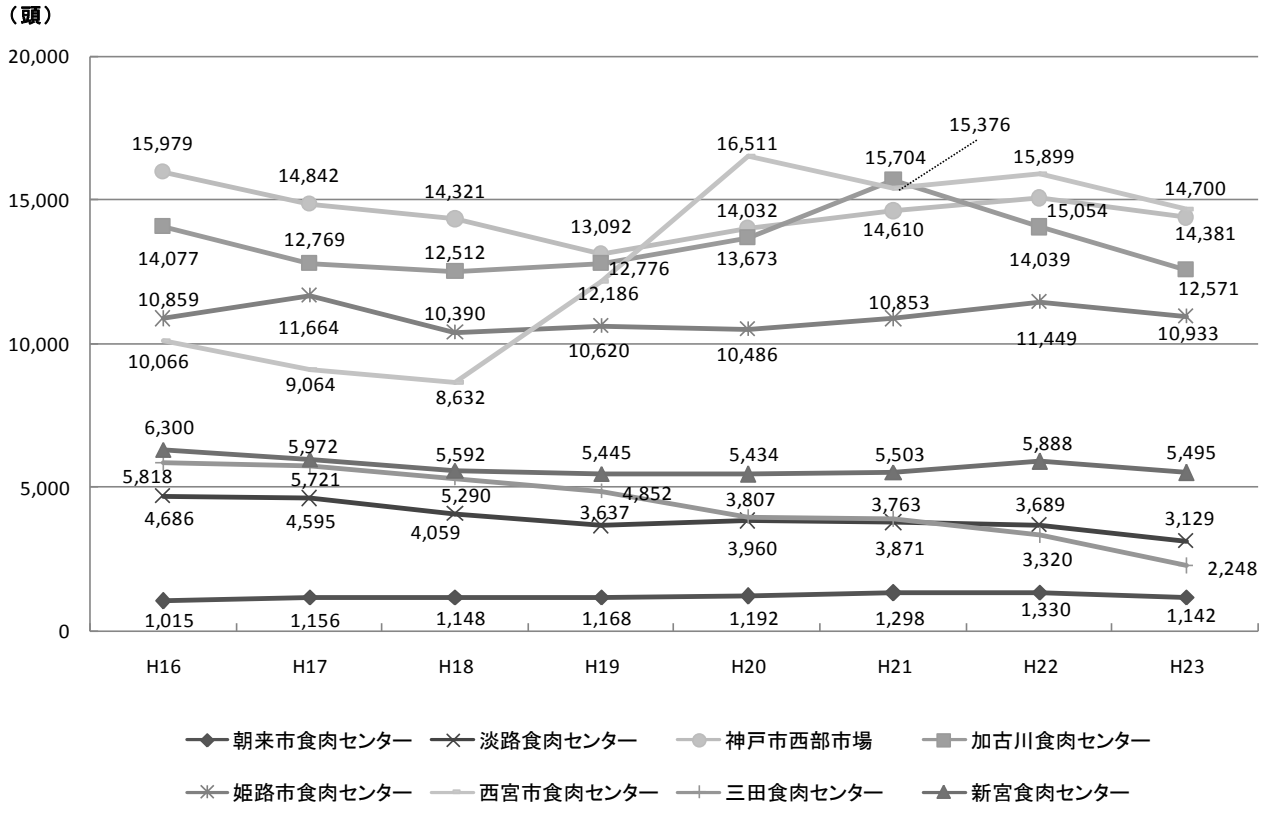
西部市場がマカオ･タイ･ベトナム・ロシア等輸出認定施設であるのに対し、加古川食肉センターも同様のマカオ･タイ･ベトナム・ロシア等認定、姫路食肉センターは対米認定施設として新施設の計画、三田食肉センターはハラ―ル対応施設への改修等が実施され認定手続き中である。

西部市場は、国内での『神戸ビーフ』の拠点施設としての位置付けを盤石なものにしていくとともに、海外への販路の拡大も模索していく必要がある。

	年度	兵庫県全体	西部市場での取扱			
			西部市場	県全体に占める割合	市内生産分	県全体に占める割合
神戸ビーフ頭数	25	3,948	2,592	65.7%	304	7.7%
	24	3,584	2,308	64.4%	308	8.6%

※兵庫県全体の期間：前年の８月１日から当該年の７月31日。
なお、平成26年度/H25.8.1～H26.7.31は、4,679頭である。

【神戸ビーフ出荷率】表Ⅳ－3



【兵庫県内食肉センターの大動物と畜頭数の推移】表Ⅳ－4

（単位:頭）

	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
朝来市食肉センター	1,015	1,156	1,148	1,168	1,192	1,298	1,330	1,142
淡路食肉センター	4,686	4,595	4,059	3,637	3,807	3,763	3,689	3,129
神戸市西部市場	15,979	14,842	14,321	13,092	14,032	14,610	15,054	14,381
加古川食肉センター	14,077	12,769	12,512	12,776	13,673	15,704	14,039	12,571
姫路市食肉センター	10,859	11,664	10,390	10,620	10,486	10,853	11,449	10,933
西宮市食肉センター	10,066	9,064	8,632	12,186	16,511	15,376	15,899	14,700
三田食肉センター	5,818	5,721	5,290	4,852	3,960	3,871	3,320	2,248
新宮食肉センター	6,300	5,972	5,592	5,445	5,434	5,503	5,888	5,495

資料）：HP、(社)日本食肉市場卸売協会「食肉中央卸売市場及び指定市場の概要」、衛生検査所資料

【年度別兵庫県内食肉センターの大動物と畜頭数】表Ⅳ－5

(2) 西部市場と 10 中央卸売市場との比較検討

① 食肉中央卸売市場の取引頭数の畜種別構成(10 中央卸売市場と県内 3 市場)

＜西部市場での牛の取引＞

平成 25 年度の西部市場の牛の取引頭数は 14,828 頭であり、全国 10 中央卸売市場の中で 7 番目の取引頭数である。＜表Ⅳ－6、7＞

（和牛取引頭数では、全国 10 中央卸売市場の中で 4 番目）

全国卸売市場の取引総頭数(1,177,869 頭)の牛畜種構成は、和牛が 45.0%、乳牛が 34.0%、交雑牛が 19.7%、その他の牛が 1.2%となっている。

また、全国の取引総頭数に対する、中央卸売市場の取引頭数の割合が 26.4%に対して、和牛の取引頭数の割合は 34.7%と高く、和牛に関しては消費地に立地する中央卸売市場に集荷される傾向がある。

10 中央卸売市場の取引畜種別構成は、和牛の比率が若干高いものの、ほぼ全国畜種別構成に近似の構成となっている。

その中で、西部市場だけが 99.8%の和牛比率であることは、注目すべき特徴といえる。＜表Ⅳ－8、9＞

兵庫県内消費地立地型食肉センター（西部市場、姫路市場、西宮市場、加古川市場）の近隣市場と対比してみても、姫路市場が和牛構成率：41.5%、西宮市場：54.6%、加古川市場：65.1%である。＜表Ⅳ－8、9＞

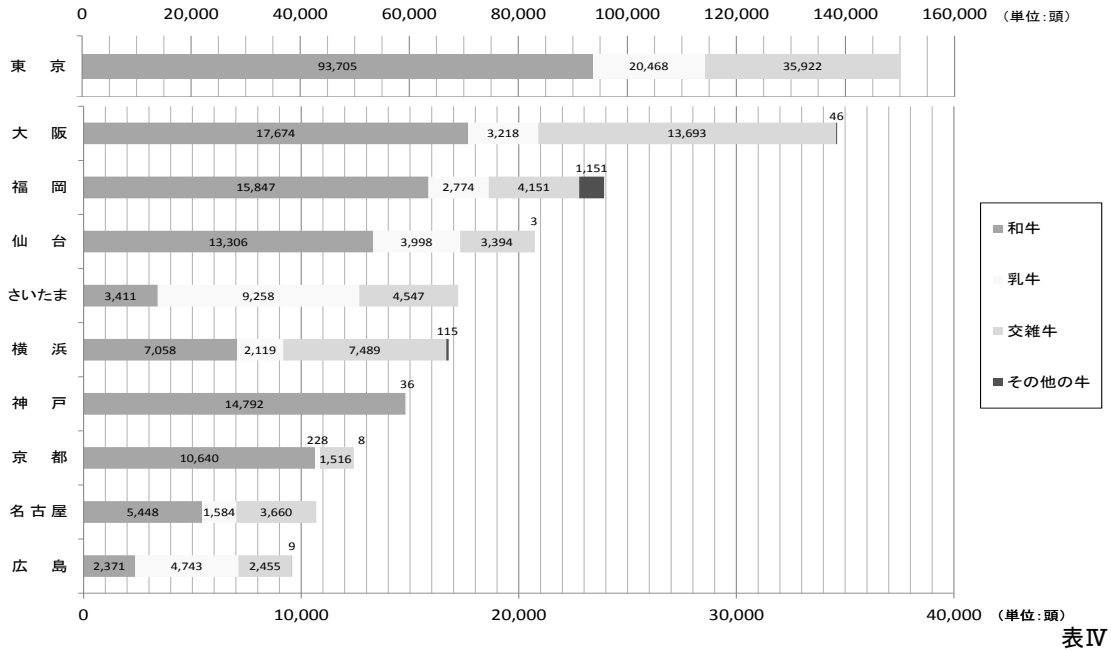
西部市場の集荷状況は、兵庫県内から 4,438 頭(西部市場の 31%)の集荷であるが、これは兵庫県産和牛の年間出荷頭数･約 13,000 頭の内、1／3 以上が西部市場に集まってきていることになる。

また、西部市場の他府県からの集荷（九州、四国、中国からの集荷が大半）は 69%を占めるが、西部市場には和牛しか集荷されていない実態は、西部市場の持つ特性に起因している。

それは、西部市場がブランド肉“神戸ビーフ”“但馬牛”の流通拠点として広く認知され、高品質な牛肉を求めて多くの買参人が集まり高値取引が常態化していることから、“神戸ビーフ”“但馬牛”以外にも、西日本を中心とする畜産各県から良質な和牛が集まってくる好循環が生み出されている。

西部市場に良質な和牛が集積され取引きが行われていることで、神戸市民及び神戸の滞在者が、美味しい牛肉を常に食しながら神戸独自の食文化を創り出している。

この神戸の食の魅力を広く認知ＰＲすることは、西部市場のもつ他市場にない差別化と優位性を明確にさせて市場の活性化に繋げ、将来の経営展望への大きな基本戦略となりえる。

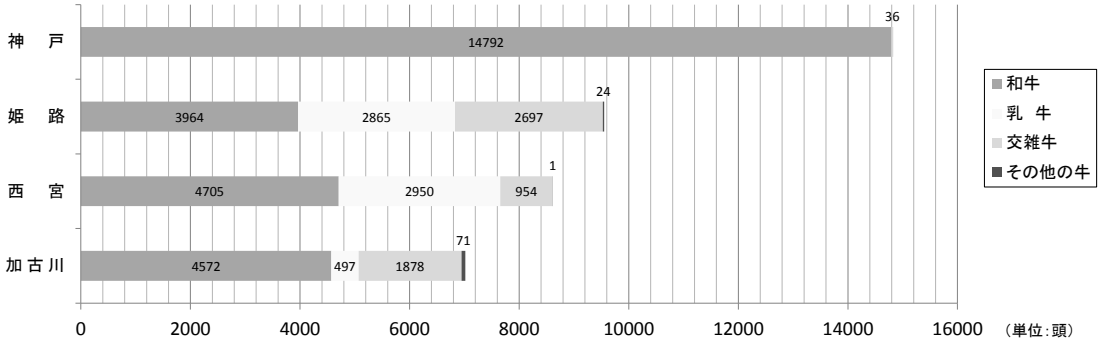


表Ⅳ－6

	和牛	乳牛	交雑牛	その他の牛	取引頭数	和牛の割合
東　京	93,705	20,468	35,922	0	150,095	62.4%
大　阪	17,674	3,218	13,693	46	34,631	51.0%
福　岡	15,847	2,774	4,151	1,151	23,923	66.2%
仙　台	13,306	3,998	3,394	3	20,701	64.3%
さいたま	3,411	9,258	4,547	0	17,216	19.8%
横　浜	7,058	2,119	7,489	115	16,781	42.1%
神　戸	14,792	0	36	0	14,828	99.8%
京　都	10,640	228	1,516	8	12,392	85.9%
名古屋	5,448	1,584	3,660	0	10,692	51.0%
広　島	2,371	4,743	2,455	9	9,578	24.8%
中央市場計	184,252	48,390	76,863	1,332	310,837	59.3%
全国頭数	530,237	401,329	232,481	13,822	1,177,869	45.0%
中央市場の全国に対するｼｪｱ	34.7%	12.1%	33.1%	9.6%	26.4%	

表Ⅳ－7

資料：HP（社）日本食肉市場卸売協会「JMMA 情報」



表Ⅳ－8

	和牛	乳　牛	交雑牛	その他の牛	取引頭数	和牛の割合
神　戸	14,792	0	36	0	14,828	99.8%
姫　路	3,964	2,865	2,697	24	9,550	41.5%
西　宮	4,705	2,950	954	1	8,610	54.6%
加古川	4,572	497	1,878	71	7,018	65.1%
近隣市場合計	28,033	6,312	5,565	96	40,006	70.1%
全国頭数	530,237	401,329	232,481	13,822	1,177,869	45.0%
近隣市場の全国に対するｼｪｱ	5.3%	1.6%	2.4%	0.7%	3.4%	

表Ⅳ－9

資料：HP（社）日本食肉市場卸売協会「JMMA 情報」

【牛の畜種別取引頭数と構成(10 中央卸売市場比較)／平成 25 年度】

西日本を中心とする各地から銘柄和牛が集まる
西部市場では、牛枝肉の共励会・共進会(品評会)が、
年間を通じて開催され、優秀な枝肉に対する表彰を
行い品質の向上と集荷促進を図っている。
また、枝肉研修会や研究会・調査会を含めると
平成 26 年度では、94 の企画を実施した。

図Ⅳ－3

【平成 26 年度の共励会・共進会の紹介】表Ⅳ－10

平成26年度

※日程、上場頭数が変更になる場合があります。予めご了承願います

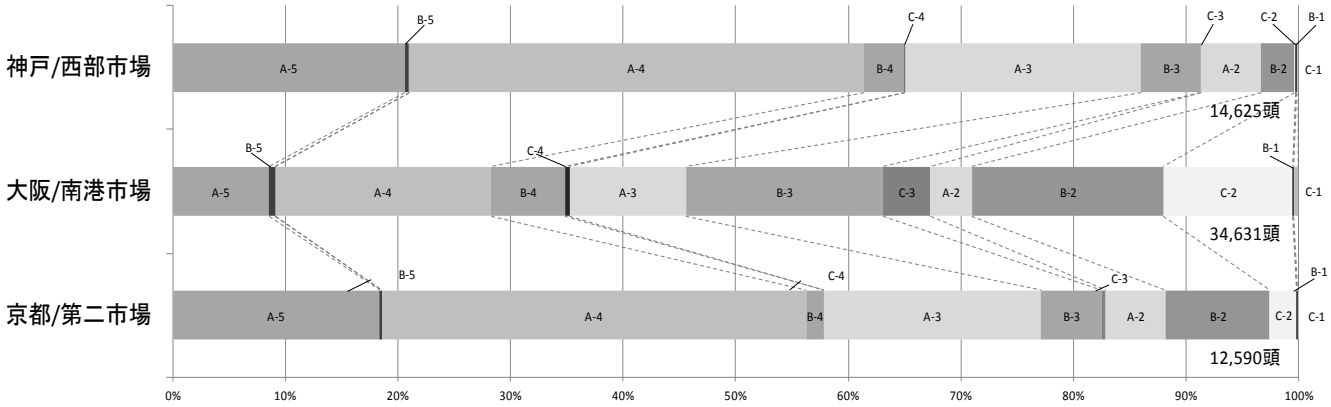
月	日	曜	開催名	出品数
4	1	火	平成26年度 JAさが佐城女性部共励会	26
	7	月	平成26年度 神戸牛枝肉共励会	65
	11	金	第7回 全畜連銘柄牛共励会	60
	14	月	第257回 神戸ビーフ共励会	65
	17	木	第113回 西畜グループ枝肉共励会	50
	21	月	第5回 家畜事業神戸ビーフ共励会	50
	24	木	平成26年度 伊予牛「絹の味」研修会	24
5	8	木	2014神戸ミートフェア 神戸市牛枝肉共励会	40
	9	金	平成26年度 JAきくち枝肉研修会	26
	19	月	第258回 神戸ビーフ共励会	65
6	2	月	第259回 神戸ビーフ共励会	65
	3	火	平成26年度 JAからつ唐津支部枝肉研修会	13
	5	木	第114回 西畜グループ枝肉共励会	50
	6	金	平成26年度 JA伊万里大川支部女性部枝肉研修会	26
	9	月	第73回 神戸市牛枝肉共励会	40
	13	金	第14回 関西系統農協枝肉共励会	50
	16	月	第6回 家畜事業神戸ビーフ共励会	50
	20	金	平成26年度 JAからつ打上支部枝肉研修会	13
	30	月	第2回 神戸ビーフ雌共励会	40
7	1	火	第68回 香川銘牛会共励会	24
	1	火	平成26年度 佐賀牛雌牛肥育枝肉研究会	13
	4	金	第18回 佐賀牛共励会	52
	7	月	第181回 神戸肉枝肉共励会	65
	8	火	第8回 全畜連銘柄牛共励会	60
	10	木	第29回 香川県丸亀地区枝肉共励会	26
	11	金	平成26年度 JA伊万里市枝肉共励会	39
	14	月	平成26年度 たじま市場枝肉共励会	55
	17	木	平成26年度 伊予牛「絹の味」愛共励会	36
	22	火	第260回 神戸ビーフ共励会	65
	23	水	平成26年度 JAさがみどり枝肉共励会	39
	24	木	第115回 西畜グループ枝肉共励会	50
	25	金	平成26年度第1回 JA鳥取いなば枝肉共励会	30
	29	火	平成26年度 JAからつ切木支部枝肉研究会	13
	31	木	第51回 連合讃岐牛枝肉共励会	26
8	1	金	第1回 東四国枝肉共励会	30
	4	月	第90回 つがまつ会神戸ビーフ共励会	65
	11	月	第183回 神戸肉枝肉共励会	65
	25	月	第261回 神戸ビーフ共励会	65
	29	金	平成26年度 JA伊万里大川支部枝肉研修会	26
9	1	月	第15回 JA兵庫六甲牛枝肉共励会	50
	8	月	第15回 JAみのり牛枝肉共励会	50
	9	火	第8回 長崎和牛「西海の牛」共励会	26
	16	火	第262回 神戸ビーフ共励会	65
	18	木	第116回 西畜グループ枝肉共励会	50
	22	月	第15回 美方郡産神戸ビーフ共励会	55
	25	木	平成26年度 伊予牛「絹の味」研修会	24
	29	月	第1回 但馬産一貫生産牛枝肉共励会	40

平成26年度

※日程、上場頭数が変更になる場合があります。予めご了承願います

月	日	曜	開催名	出品数
10	2	木	平成26年度 伊予牛「絹の味」愛共励会	36
	6	月	平成26年度 丹波篠山牛枝肉共励会	35
	10	金	第5回 神戸西部市場銘柄牛共進会	120
	14	火	第13回 JAたじま但馬産牛神戸ビーフ共励会	65
	16	木	第25回 神戸家畜商組合枝肉共励会	30
	20	月	第263回 神戸ビーフ共励会	65
11	5	水	第48回 みのりの祭典神戸市牛枝肉共励会	40
	6	木	第53回 愛媛県肉畜見本市共励会	36
	10	月	第264回 神戸ビーフ共励会	65
	14	金	第15回 伊万里産佐賀牛枝肉共励会	39
	16	日	第61回 近畿東海北陸共進会	100
	17	月	第20回 里田庄和牛枝肉共励会	50
	20	木	第117回 西畜グループ枝肉共励会	55
	25	火	平成26年度 たじま牛枝肉共励会	65
	26	水	第9回 JAからつ枝肉共励会	52
	27	木	第39回 篠山市肉牛共励会	30
12	1	月	第12回 加古川和牛枝肉共励会	35
	1	月	第91回 つがまつ会神戸ビーフ共励会	65
	2	火	第26回 JA全農ミートフーズ雌枝肉共励会	100
	3	水	第118回 西畜グループ枝肉共励会	55
	3	水	平成26年度 JAさが佐城枝肉共励会	26
	4	木	平成26年度 香川県モデル農家枝肉共励会	39
	4	木	第74回 神戸市牛枝肉共励会	40
	5	金	平成26年度第2回 JAいなば枝肉共励会	30
	8	月	第184回 神戸肉枝肉共励会	100
	9	火	第19回 長崎県産和牛枝肉共励会	39
	11	木	第50回 全畜連坂末連合共進会	100
	12	金	平成26年度 JA伊万里大川支部枝肉共励会	39
	15	月	第7回 家畜事業神戸ビーフ共励会	60
	16	火	平成26年度 JAさがみどり地区枝肉共励会	36
1	8	木	第17回 観音寺・三豊市枝肉共励会	26
	13	火	第31回 淡路産和牛枝肉共励会	55
	19	月	第265回 神戸ビーフ共励会	65
	20	火	平成26年度 JAからつ肥育部青年部研修会	26
	22	木	第119回 西畜グループ枝肉共励会	40
2	3	火	第69回 香川銘牛会共励会	24
	5	木	平成26年度 JA愛媛4JA「絹の味」枝肉研修会	24
	9	月	第266回 神戸ビーフ共励会	65
	12	木	平成26年度 現場後代検定合同調査会	50
	13	金	平成26年度 JA伊万里大川支部役員研修会	13
	16	月	平成26年度 たじま市場枝肉共励会	55
	24	火	平成26年度 JAからつ玄海支部研修会	13
3	2	月	第185回 神戸肉枝肉共励会	65
	3	火	平成26年度 JAからつ切木支部研修会	13
	9	月	第267回 神戸ビーフ共励会	65
	19	木	第120回 西畜グループ枝肉共励会	40
	23	月	第92回 つがまつ会神戸ビーフ共励会	65

西部市場の平成 25 年度成牛取扱頭数：14,625 頭の内、A-5･B-5 クラスの成牛は、3,064 頭(構成比：21%)、A-4･B-4･C-4 クラスの成牛は、6,451 頭(構成比：44%)を占めている。



【京阪神 3 中央卸売市場の成牛規格別年間取引頭数の構成（資料 8 よりグラフ化)】表Ⅳ－11

＜西部市場での豚の取扱＞

平成 25 年度の西部市場の豚の取引頭数は 8,804 頭であり、全国 10 中央卸売市場の中で 10 番目の取引頭数である。＜表Ⅳ－12、13＞

（近隣する西宮市場の豚処理頭数:45,476 頭と比べてみても、西部市場の処理頭数:8,826 頭は少ない。）

また、全国の取引総頭数:16,936,487 頭に対する、10 中央卸売市場の取引総頭数:966,442 頭の割合は 5.7%と低い割合であり、豚肉は卸売市場を経由せずに流通されている傾向がある。

＜表Ⅳ－13＞

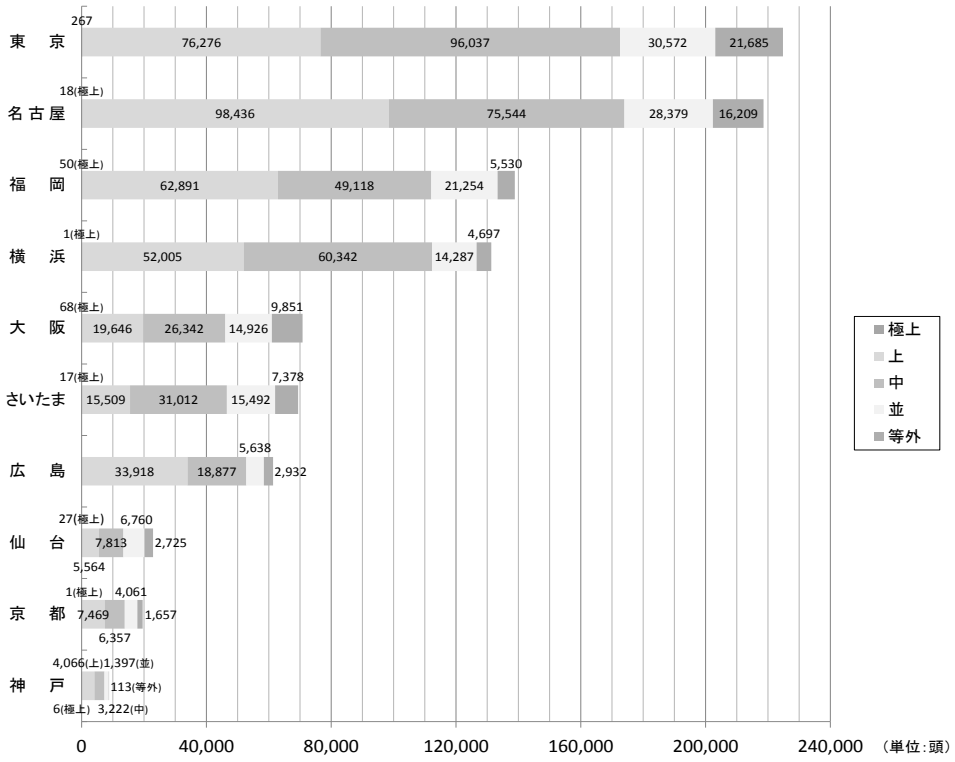
と畜処理能力と稼働率についても、西部市場の豚と畜能力：200 頭／日に対して、平均と畜頭数／年日は 36 頭／年日にすると稼働率は 18%となり、10 中央卸売市場の中で 10 番目の最も低い稼働率である。

（現状では、週／月･水･木の隔日で操業していることから、稼働率は約 30%となる）

西部市場への出荷状況は、他府県からの出荷はなく 100%が兵庫県内からの出荷であり、兵庫県の年間総出荷頭数:約 4 万頭の 1／4 が西部市場で取り扱われている。

ただし、西部市場は、取扱頭数中の上クラス豚の割合が約 50%を占めており、他の中央卸売市場に比べて高級豚肉を扱っている比率が比較的高いのが特色といえる。

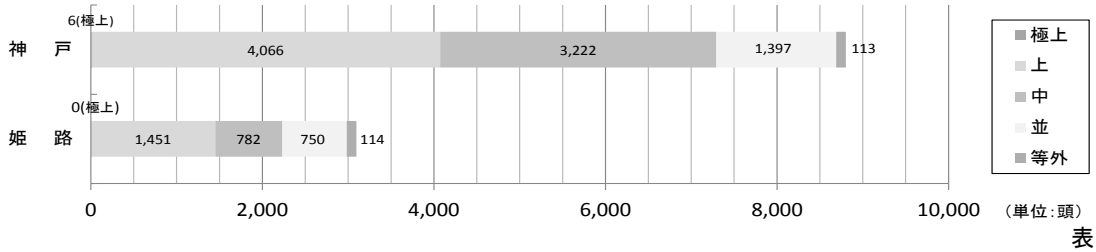
西部市場の豚の処理頭数は、平成 22 年以降 10,000 頭を割り込み、その稼働率も減少傾向にあり、豚の処理能力：200 頭／日の豚生産ラインを有効に活用する方策が求められる。



表Ⅳ－12

	極上	上	中	並	等外	取引頭数	極上・上の割合
東　京	267	76,276	96,037	30,572	21,685	224,837	34.0%
名古屋	18	98,436	75,544	28,379	16,209	218,586	45.0%
福　岡	50	62891	49118	21254	5530	138843	45.3%
横　浜	1	52005	60342	14287	4697	131332	39.6%
大　阪	68	19646	26342	14926	9851	70833	27.8%
さいたま	17	15509	31012	15492	7378	69408	22.4%
広　島	0	33918	18877	5638	2932	61365	55.3%
仙　台	27	5564	7813	6760	2725	22889	24.4%
京　都	1	7469	6357	4061	1657	19545	38.2%
神　戸	6	4066	3222	1397	113	8804	46.3%
中央市場計	455	375,780	374,664	142,766	72,777	966,442	38.9%
				全国頭数		16,936,487	
				全国に対するｼｪｱ		5.7%	

表Ⅳ－13



表Ⅳ－14

	極上	上	中	並	等外	取引頭数	極上・上の割合
神　戸	6	4,066	3,222	1,397	113	8,804	46.3%
姫　路	0	1,451	782	750	114	3,097	46.9%
近隣市場合計	6	5,517	4,004	2,147	227	11,901	46.4%
				全国頭数		16,936,487	
				全国に対するｼｪｱ		0.1%	

資料：HP（社）日本食肉市場卸売協会「JMMA 情報」

表Ⅳ－15

【豚の畜種別取引頭数と構成(10 中央卸売市場比較)／平成 25 年度】

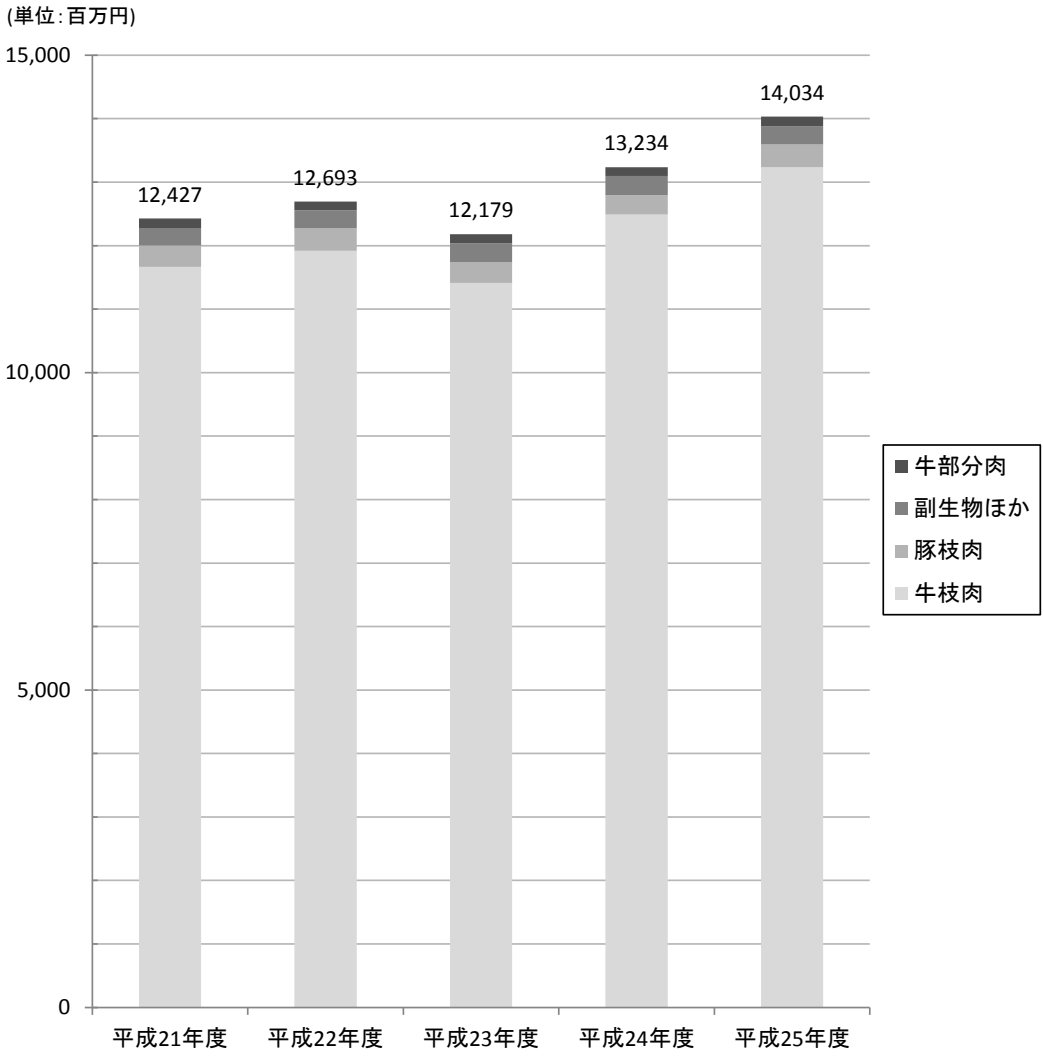
(3) 西部市場の取扱高の動向

（ア）西部市場の取扱数量、取扱金額の推移

牛の取扱数量は、比較的安定的に推移し近年では微増傾向にあるが、豚の取扱量は減少傾向にあり平成 22 年以降は、10,000 頭を下回った状況が続いている。＜表Ⅳ－18＞

また、豚の取扱金額は年間 3 億 5 千万円程度で、西部市場年間取扱金額 140 億円の 2.5%の割合である。＜表Ⅳ－16、17＞

（牛の内臓副生物と部分肉加工の取扱金額の和で 4.4 億円）



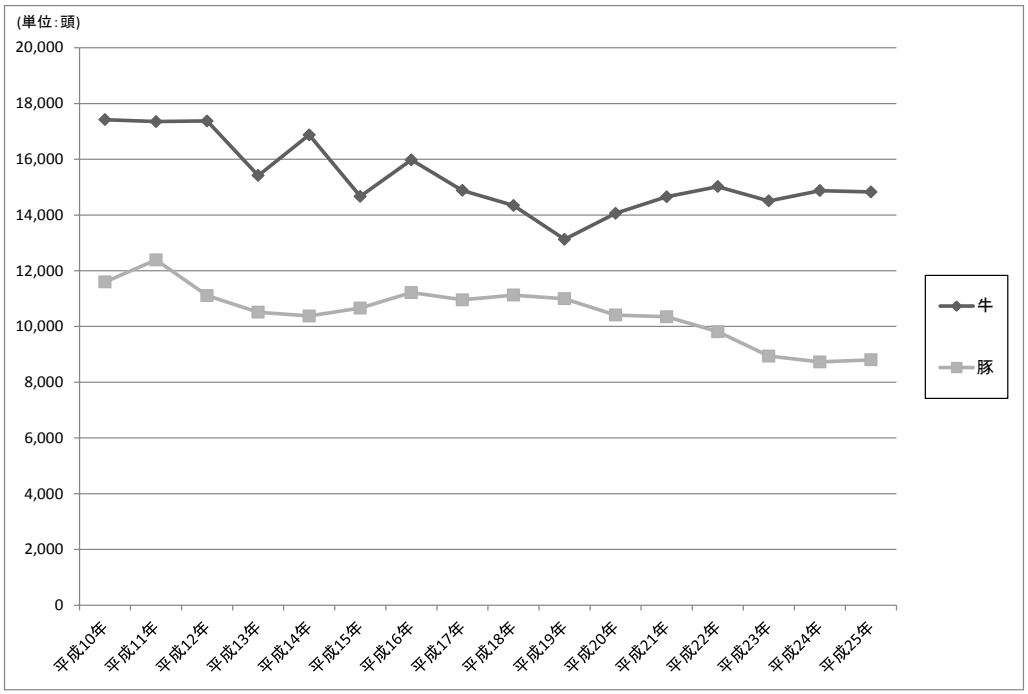
【西部市場の取扱高の推移（食肉全体）】

（単位:百万円）　表Ⅳ－16

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
牛枝肉	11,664	11,917	11,412	12,490	13,236
豚枝肉	339	362	331	308	357
副生物ほか	274	276	296	301	288
牛部分肉	150	138	140	135	153
合計	12,427	12,693	12,179	13,234	14,034

資料：HP（社）日本食肉市場卸売協会「JMMA 情報」

表Ⅳ－17

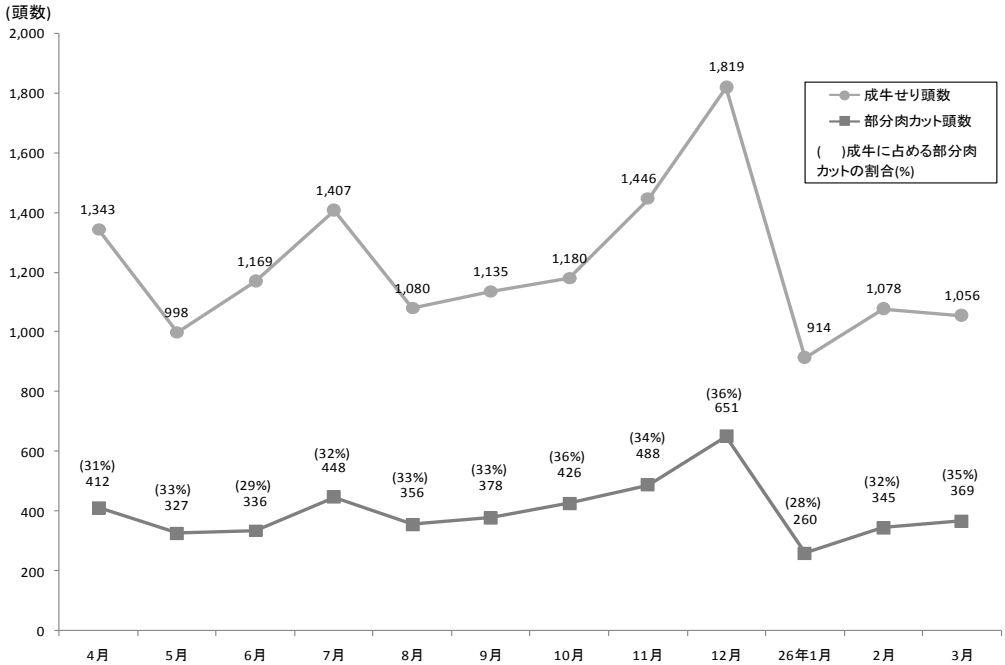


資料：HP（社）日本食肉市場卸売協会「JMMA 情報」

【西部市場の取扱頭数の推移（牛・豚）】表Ⅳ－18

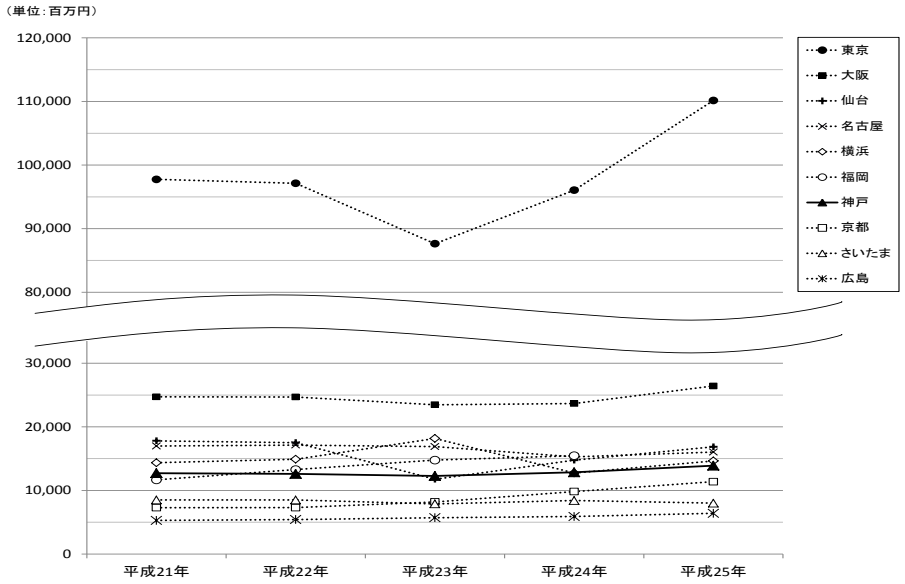
（イ）西部市場内での部分肉カット頭数

西部市場での牛せり頭数の約 1／3が、市場内で部分肉カットされている。



【平成 25 年度 牛 月別カット頭数】表Ⅳ－19

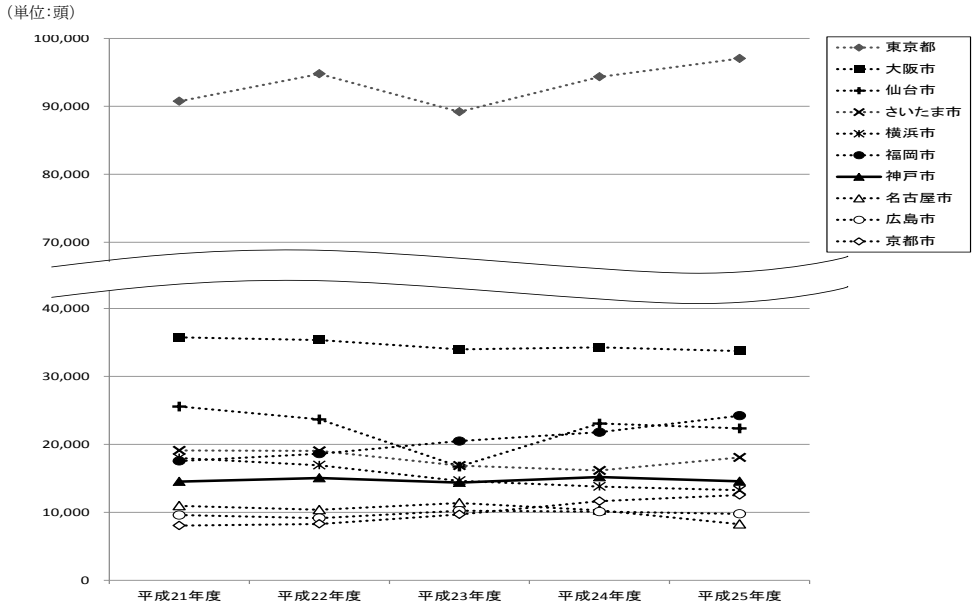
（ウ）10 中央卸売市場の取扱高の推移比較



資料：各地方自治体年報より

【食肉中央卸売市場（10 市場）牛取扱高の推移・比較】表Ⅳ－20

（エ）10 中央卸売市場　過去５年間の成牛と畜頭数



年度 / 市場名	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
仙台市	25,567	23,679	16,742	23,065	※ 22,351
さいたま市	19,100	19,033	16,873	※ 16,158	18,063
東京都	90,743	94,758	89,178	94,323	97,024
横浜市	17,987	16,925	14,626	※ 13,791	※ 13,255
名古屋市	10,953	10,374	11,372	※ 10,305	※ 8,258
京都市	8,045	8,281	9,676	11,632	12,541
大阪市	35,737	35,356	33,973	34,280	※ 33,738
神戸市	14,523	15,054	14,381	15,193	※ 14,559
広島市	9,594	9,143	10,240	※ 10,104	※ 9,774
福岡市	17,554	18,626	20,479	21,781	24,212

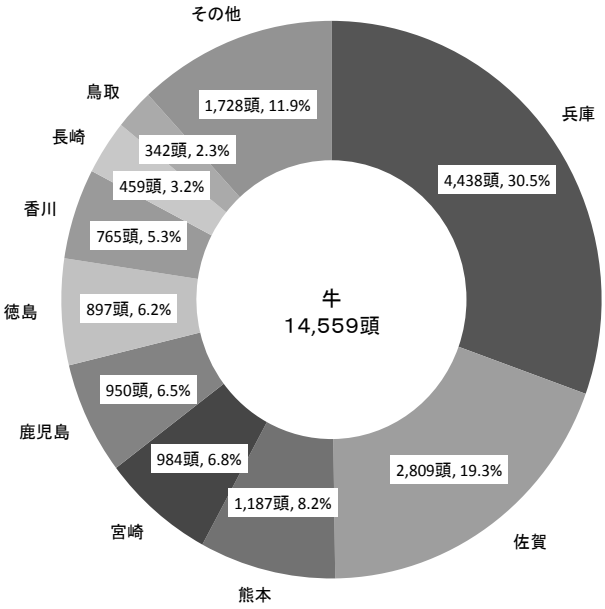
※は対前年度減

【10 中央卸売市場　過去５年間の成牛と畜数の推移】表Ⅳ－21

（オ）西部市場への出荷状況

西部市場への牛の出荷は、兵庫県内から約 30%、九州から約 45%、四国から約 15%の割合構成で、他府県は兵庫県以西が大半を占めている。＜表Ⅳ－22、23＞

また、豚の出荷は、100%が兵庫県内となっている。＜表Ⅳ－24、25＞



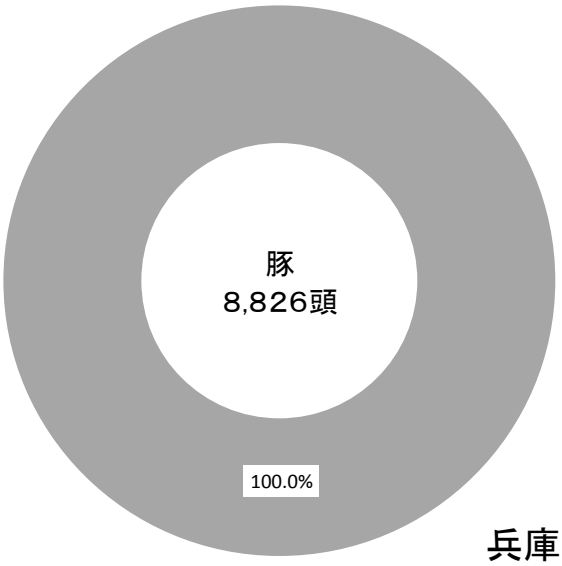
【出荷地別生体入荷状況(牛)】表Ⅳ－22

	頭数	割合(%)
兵庫	4,438頭	30.5%
佐賀	2,809頭	19.3%
熊本	1,187頭	8.2%
宮崎	984頭	6.8%
鹿児島	950頭	6.5%
徳島	897頭	6.2%
香川	765頭	5.3%
長崎	459頭	3.2%
鳥取	342頭	2.3%
その他	1,728頭	11.9%

その他の都道府県　内訳
福岡、三重、岡山、北海道、
長野、島根、和歌山、山口、
愛知、岩手、大分、奈良、
福井、福島、岐阜、広島

資料：平成 25 年度　神戸市中央卸売市場　西部市場　年報

表Ⅳ－23



【出荷地別生体入荷状況（豚）】表Ⅳ－24

	頭数	割合(%)
兵庫	8,826頭	100.0%

資料：平成 25 年度　神戸市中央卸売市場　西部市場　年報

表Ⅳ－25

(4) 兵庫県産和牛の動向

（ア）市場別の枝肉卸売価格

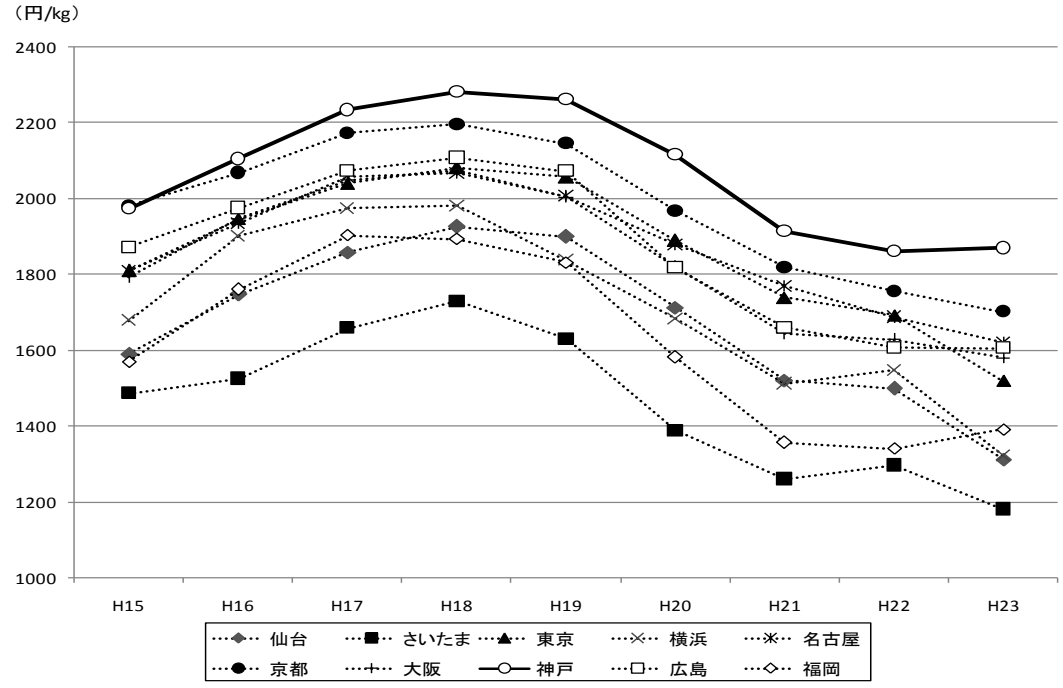
西部市場の枝肉卸売価格は、10 中央卸売市場の中で最も高く、指定市場を含めた全国でも１番の高値取引がされている。＜表Ⅳ－26、27＞

（kg あたり 1,800 円台は、神戸と岐阜のみである）

	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
中央市場平均	1,757	1,892	2,003	2,034	1,975	1,786	1,620	1,592	1,511
仙台	1,590	1,748	1,859	1,927	1,900	1,713	1,521	1,499	1,313
さいたま	1,487	1,526	1,659	1,729	1,630	1,388	1,261	1,297	1,181
東京	1,811	1,947	2,041	2,082	2,058	1,890	1,739	1,694	1,520
横浜	1,679	1,902	1,975	1,981	1,838	1,684	1,513	1,547	1,322
名古屋	1,810	1,935	2,059	2,067	2,007	1,878	1,770	1,688	1,620
京都	1,981	2,069	2,173	2,196	2,146	1,968	1,819	1,757	1,702
大阪	1,794	1,949	2,049	2,075	2,005	1,820	1,645	1,628	1,580
神戸	1,974	2,105	2,235	2,282	2,263	2,118	1,914	1,863	1,870
広島	1,872	1,976	2,074	2,109	2,073	1,818	1,660	1,608	1,606
福岡	1,570	1,761	1,904	1,894	1,833	1,582	1,357	1,341	1,392
指定市場平均	1,752	1,904	2,019	2,046	1,980	1,852	1,699	1,661	1,570
茨城	1,573	1,796	1,915	1,975	1,967	1,839	1,761	1,699	1,520
宇都宮	1,948	2,018	2,096	2,145	1,963	1,701	1,523	1,399	1,295
群馬	1,744	1,896	1,974	1,952	1,896	1,805	1,631	1,616	1,475
川口	1,739	1,892	1,975	1,988	1,914	1,773	1,600	1,547	1,400
山梨	1,738	1,875	2,022	2,007	1,982	1,772	1,612	1,580	1,455
岐阜	2,164	2,243	2,400	2,396	2,314	2,087	2,116	2,106	1,826
浜松	1,916	2,019	2,068	2,169	2,144	2,019	1,826	1,901	1,778
愛知	1,730	1,916	2,041	2,063	1,845	－	－	－	－
東三河	1,814	1,929	2,034	2,099	2,056	1,933	1,775	1,666	1,590
四日市	1,742	1,934	2,025	1,998	1,913	1,699	1,676	1,638	1,566
南大阪	1,613	1,749	1,860	1,841	1,787	1,609	1,495	1,466	1,416
姫路	1,734	1,969	2,128	2,057	2,091	2,032	1,799	1,827	1,777
加古川	1,842	1,993	2,165	2,217	2,101	2,058	1,890	1,758	1,702
西宮	1,600	1,793	1,848	1,987	1,808	1,927	1,533	1,638	1,586
岡山	1,737	1,924	2,022	2,068	2,060	1,966	1,813	1,682	1,640
坂出	1,728	1,929	2,000	2,045	1,999	1,818	1,685	1,641	1,651
愛媛	－	－	－	－	－	－	－	－	－
佐世保	1,493	1,683	1,780	1,826	1,825	1,584	1,451	1,478	1,513
熊本	1,675	1,705	1,993	1,991	1,981	1,858	1,693	1,602	1,500

資料：農林水産省「畜産物流統計」

表Ⅳ－26



【市場別枝肉 1kg 当たり卸売価格の推移】

表Ⅳ－27

（イ）兵庫県産和牛のブランド力

『神戸ビーフ』は、バイヤーの評価及び消費者の評価の中でも、常にトップクラスであり、『松阪牛』『米沢牛』と並んで、日本の3大ブランドに挙げられている。＜表Ⅳ－28～30＞

日本政策金融公庫　農林水産事業「牛肉・豚肉ブランド化への取り組みとその評価(2009.6)」

対象者：・日経リサーチの精肉バイヤーパネルに登録しているバイヤー199人(178社)

・日経リサーチの消費者モニターとして登録している既婚女性15,000人

【バイヤー・消費者が評価する牛肉ブランド】

バイヤーが評価する牛肉ブランドランキング　上位10銘柄

総合順位	ブランド	産地	総合得点	品質・生産体制									マーケティング								取り引き				
				部門順位	部門得点	品質が良い	安全性に信頼が置ける	品質管理がしっかりしている	味が良い	取引に信頼がおける	商品コンセプトが良い	部門順位	部門得点	リピート需要がある	産地のイメージが良い	消費者の認知度が高い	ブレミアム価値がある	ネーミングやデザインがよい	広告・PR等が効果的	部門順位	部門得点	当価格水準が妥	引価格条件面が良い取	柔取引の対応が軟
1	松阪牛	三重県	764.1	1	450.1	100.6	99.9	106.7	101.6	97.5	115.8	1	165.5	87.9	109.7	111.8	116.7	117.5	112.2	50	56.2	51.6	45.7	44.6
2	神戸ビーフ(神戸肉)	兵庫県	684.5	2	369.4	79.9	91.7	80.3	84.8	85.8	85.5	2	156.6	98.3	91	97	98.3	106.4	99.1	5	81.3	58.1	71.5	81.1
3	鹿児島黒牛	鹿児島県	652.1	7	327.5	69.6	78	77.4	71.6	85.8	69.1	5	116.4	91.5	67.4	59	50.7	57.4	59.8	1	136.2	115.4	128.2	102.8
4	米沢牛	山形県	631.8	3	364.4	81.8	83.4	83.3	88.3	74.1	87.7	3	127.3	71.2	85.3	86.9	93.8	65.5	83.5	39	57.8	45.2	51.7	51.5
5	佐賀牛	佐賀県	629.2	4	337.4	84.6	68.4	78.8	79.5	74.1	76	7	115.4	77.9	68.4	68.2	64.5	68.1	70.4	3	89.1	80.1	64.6	81.1
6	宮崎牛	宮崎県	619.2	8	320.8	74.3	79.3	70	74.2	62.5	76	8	109.2	68	73.1	64.3	54.3	62.5	88.8	2	109.4	108.9	83.5	81.1
7	飛騨牛	岐阜県	610.9	6	330.4	79.9	71.2	74.4	76.9	79.6	71.3	6	115.6	74.8	77.8	67.5	65.3	71	62.3	4	82.8	67.6	77.5	66.3
8	近江牛	滋賀県	596.9	5	336	79	83.4	76	76.9	68.7	69.1	4	119.7	68	79.7	85.3	75.5	76.2	70.4	19	61.4	58.1	51.7	44.6
9	いわて前沢牛	岩手県	544.2	9	308	70.5	69.7	74.4	70.7	74.1	59.6	9	108.5	68	68.4	69	70.9	62.5	59.8	54	55.6	45.2	45.7	51.5
10	仙台牛	宮城県	542.5	10	306.6	72.4	68.4	70	69.8	79.6	59.6	11	96.6	58.1	64.7	59.7	57	65.5	59.8	6	79.7	54.6	71.5	81.1

※各項目の値は偏差値、部門得点は偏差値に重要度をかけた値の合計、総合得点は部門得点の合計

資料：日本政策金融公庫　農林水産事業

情報戦略レポート「牛肉・豚肉のブランド化への取り組みとその評価」

表Ⅳ－28

消費者が評価する牛肉ブランドランキング　上位10銘柄

総合順位	ブランド	産地	総合得点	商品コンセプトと信頼性						基本価値					マーケティング					
				部門順位	部門得点	安全性に信頼がおける	コンセプトが良い（品種法・飼料・飼養法）	産地のイメージがよい	産地や生産履歴の表示がわかりやすい	部門順位	部門得点	味が良い（おいしそう）	見た目がきれい	価格にみあった価値がある	部門順位	部門得点	ブレミアム価値を感じる	広告・キャンペーンが魅力的	ネーミングやラベルデザインが良い	周囲の評判が良い
1	松阪牛	三重県	479.3	1	156.0	114.8	119.9	102.2	111	1	165.3	112.5	134.3	129.1	1	37.7	138.7	113.3	136.9	96.9
2	米沢牛	山形県	379.3	2	129.7	97.6	89.7	90.2	89.5	2	123.7	98.6	90.6	92.3	2	26.8	97.8	83.9	96.3	67
3	神戸ビーフ(神戸肉)	兵庫県	355.7	5	119.3	87.2	75.9	86.7	87.5	5	117.1	91.6	89.1	86.3	3	25.9	89.9	86.3	86.4	91.9
4	近江牛	滋賀県	352.8	4	122.3	89.3	78.4	89.6	89	4	117.7	91	90.2	87.2	4	25.3	84.9	78.4	92	81.1
5	飛騨牛	岐阜県	351.8	3	122.6	90.4	72.1	95.3	86.5	3	118.3	89.7	92	88	5	23.5	80.1	76	81.8	76.9
6	兵庫産(但馬牛)	兵庫県	316.5	6	112.4	80.5	77.2	82.2	81.9	6	102.4	80.6	75.6	76.9	6	22.9	86.2	64.1	81.5	68.7
7	山形牛	山形県	276.4	7	99.1	71.5	66.5	74.9	70.1	7	93	73.8	68.4	69.6	11	18.1	62.6	58.5	64.1	54.6
8	仙台牛	宮城県	275.2	7	99.1	71.5	61.4	74.3	73.2	9	89.6	73.3	67.3	64.1	12	17.9	61.7	57	62.8	58.7
9	佐賀牛	佐賀県	269.7	12	94.6	68.4	62.1	66	72.2	8	90.2	68.3	64.3	71.8	8	18.4	61	60.1	67.7	50.4
10	宮崎牛	宮崎県	267.1	10	98.4	69.5	69.6	72.3	72.2	13	82.9	64.9	57.1	65.8	7	22.3	56.5	136.3	59.8	54.6

※各項目の値は偏差値、部門得点は偏差値に重要度をかけた値の合計、総合得点は部門得点の合計

資料：日本政策金融公庫　農林水産事業

情報戦略レポート「牛肉・豚肉のブランド化への取り組みとその評価」

表Ⅳ－29

消費者の牛肉ブランド認知度ランキング　（%）

順位	ブランド	産地	全国	北海道東北	関東	中部	近畿	中国四国	九州沖縄
1	松阪牛	三重県	92.7	88.4	93.9	94.7	95.4	90.9	88.9
2	米沢牛	山形県	89.3	91.5	96	86.6	83.5	82.8	88.2
3	神戸ビーフ(神戸肉)	兵庫県	80.3	73.6	76.2	80.4	93.8	82.8	75.7
4	近江牛	滋賀県	76.6	70.6	72.8	81.5	92.2	75.2	61.5
5	飛騨牛	岐阜県	72.2	62.5	70.7	89.3	80.2	59.2	54.9
6	兵庫産(但馬牛)	兵庫県	57.6	46.4	54.7	47	88.3	67.6	48.3
7	山形牛	山形県	53.4	54.9	72.2	49.1	48	34.3	37.4
8	仙台牛	宮城県	50.1	68	62.2	53.4	33	28.4	36.1
9	佐賀牛	佐賀県	46.2	39.5	34.1	30.6	59.3	43.4	86.8
10	宮崎牛	宮崎県	44.4	36.6	46.6	37.6	46.9	40.2	58.5

資料：日本政策金融公庫　農林水産事業

情報戦略レポート「牛肉・豚肉のブランド化への取り組みとその評価」

表Ⅳ－30

(5) 西部市場の運営

(ア) 西部市場のと畜処理能力と稼働率(他中央卸売市場との比較)

西部市場のと畜能力に対する施設稼働率は、牛に関しては、他中央卸売市場の中でも平均的稼働であるが、豚に関しては、最も稼働率が低い。＜表Ⅳ－31＞

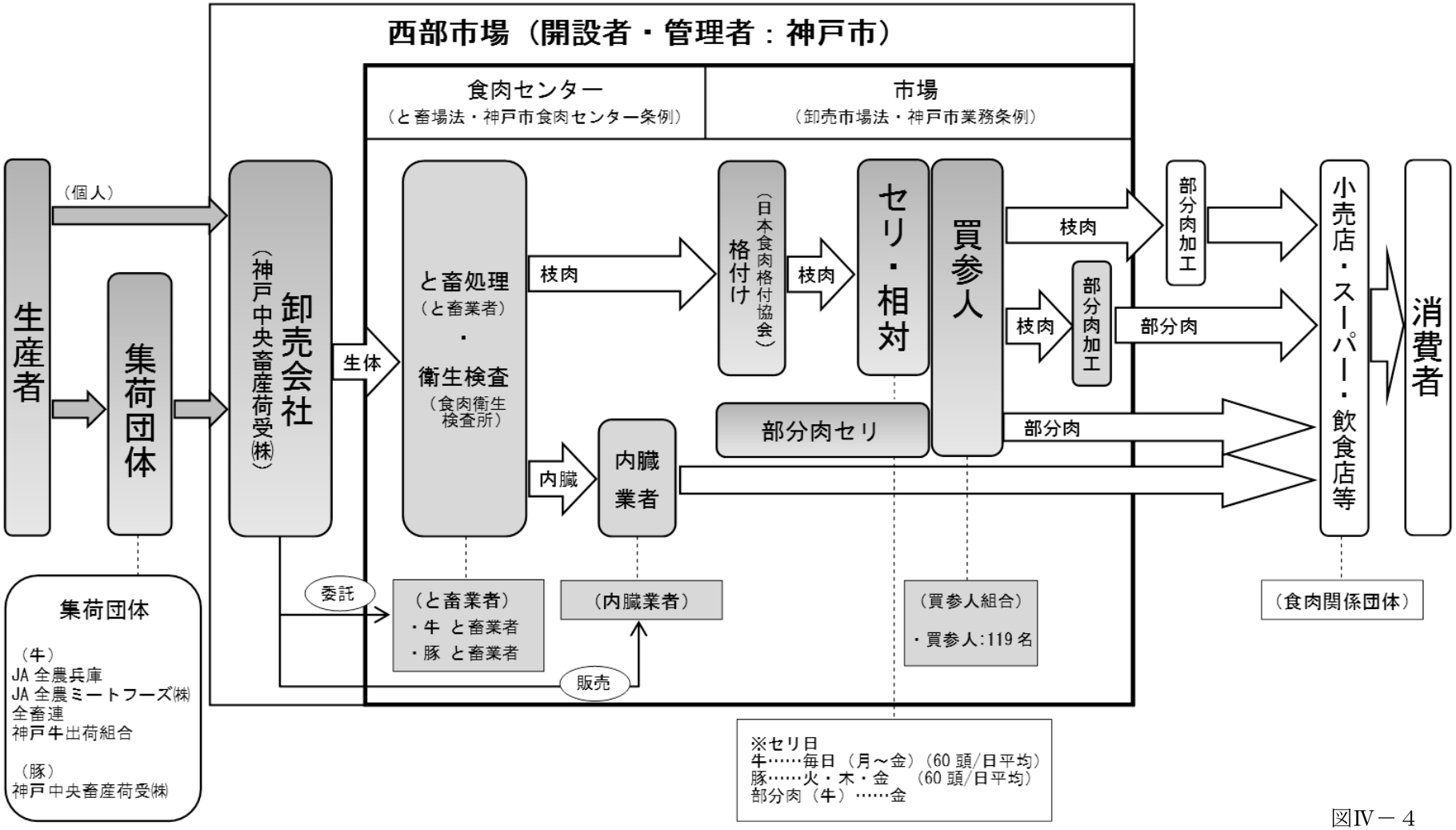
	牛　と畜能力			豚　と畜能力		
	平均と畜頭数／日	と畜能力／日	稼働率	平均と畜頭数／日	と畜能力／日	稼働率
東京都	361	450	80%	695	1400	50%
横浜市	61	105	58%	544	800	68%
名古屋市	44	100	44%	859	1000	86%
京都市	47	120	39%	75	165	45%
大阪市	138	200	67%	291	500	58%
神戸市	60	100	60%	36	200	18%
福岡市	83	120	69%	542	600	90%

表Ⅳ－31

(イ) 西部市場の運営体制

現在の西部市場の運営体制と市場内での食肉の流れを次項に示す。

西部市場の運営体制及び食肉の流通



図Ⅳ－４

Ⅴ．西部市場の現状評価と課題の抽出

「Ⅲ.食肉市場の社会的背景」の分析と「Ⅳ．西部市場の現状把握」を踏まえて、西部市場の持つ強みと弱みについて、外部環境と内部環境に対して評価と分析（SWOT 分析）を行う。

（１）西部市場を取り巻く外部環境の評価（機会・脅威の把握）

	評　価　項　目
機会	**立地特性** ・人口 150 万人以上の神戸市をはじめ周辺都市を抱える大消費地に立地している。 ・名神高速･山陽道･中国道に直結する阪神高速湊川ランプに近く、集荷に適している。 ・神戸市営地下鉄海岸線苅藻駅より徒歩 5 分以内の交通至便な場所に位置している。 ・銘柄和牛を産出する兵庫県に立地している。 **西部市場の優位性** ・京阪神の 3 中央卸売市場食肉市場の１つとして位置付けられている。 ・但馬牛をはじめとする全国の銘柄黒毛和牛の多くが出荷されてくる市場である。 ・国際観光都市･港町神戸は、観光資源も豊富であることから、レストランや中華街など牛肉や豚肉の多様な供給先がある。 ・味覚に肥えた消費者の食文化に応えられるような良質な食肉を供給してきた。 ・但馬牛・神戸ビーフのブランド名を有するには、県下のと畜場でのと畜が必要である。 **生産者･消費者からのニーズ** ・消費者からは、中央卸売市場への「安全・安心」に対する期待がある。 ・銘柄黒毛和牛を求める買参人が集まることから、セリが活性化している。 ・和牛及び国内産豚は、根強い需要がある。

	評　価　項　目
脅威	**食肉の消費動向** ・人口減少により、食肉を含む総消費量は、今後減少すると予測される。 ・TPP による関税の自由化により、安価な輸入肉が出回る恐れがある。 ・BSE･口蹄疫･O-157 から放射性セシウム汚染等に見るように、消費者の購買意欲の低下は、消費動向に大きく影響を与える。 **食肉の流通** ・近年、和牛頭数が減少している。 ・畜産産地での産地出荷の重視により、消費地立地型の卸売市場を経由せず、量販食品スーパーチェーン等の実需者に販路を直結する流れがある。 ・増加する輸入食肉は、商社・大手量販店経由の流通ルートで実需者に供給される。 **卸売市場への要望の変化** ・部分肉加工処理の高度化 ・衛生品質管理の高度化／HACCP 基準への対応　等新たな要望がある。 **市場の動向** ・京阪神の３中央卸売市場である京都市場は平成 30 年度新市場完成予定、大阪市場では整備手法の検討がされている。 ・地方市場である姫路市場については、対米・対 EU 認定施設としての整備が進められている。

（２）西部市場内部の評価（強み・弱みの把握）

	評　価　項　目
強み	**有形資産** ・対マカオ・タイ・ベトナム・ロシア等の輸出認定を受けている中央卸売市場である。 ・豚のと畜解体は、他市場では行われていない湯剥ぎ方式が採用されているため、小売店等では販売方法が多様化できる。 ・食肉センター内での部分肉二次加工に対応している。 **無形資産** ・牛の取扱頭数の黒毛和牛比率は、ほぼ 100%であり、銘柄和牛が出荷される市場である。 ・他市場と比べて 1 頭当たりの牛枝肉取引価格が高い。 ・部分肉業者が加工した週 1 回の部分肉セリが開かれ、広く買参人に売買されている。 ・各県の銘柄牛による枝肉品評会(共励会)を実施することにより、集荷の拡大をはかるとともに買参人へせりの参加を積極的に PR している。 ・施設･設備の維持管理業務等について、民間委託の範囲を最大限に拡げ、柔軟な対応をしている。 ・集荷 4 団体と卸売業者が、情報交換・連携して集荷促進に努める集荷体制が確立されている。 ・安定供給を図るため、定期的に集荷者会議を実施し、集荷調整をしている。 ・買参人のせり代金の集金業務をする買参人組合がある。 **人的資源** ・作業従事者は、若年層が増加し、技術が継承されている。

	評　価　項　目
弱 み	**有形資産** ・築後 18 年を経過して、施設及び設備の老朽化が進み、維持管理のための保全修繕費用が増加傾向にある。 ・牛と豚の搬入出路及び解体ラインが完全分離されていない。 ・作業工程の異なる作業従事者の場内でのアクセスが交差している。 ・施設規模により、輸出対応国が現在認定を受けている国程度に限定される。 **無形資産** ・豚のと畜は、200 頭/日の処理能力を有しているが、処理頭数が少ない。 ・と畜作業工程により、複数の関係団体が関わっているため調整に時間を要する。 **人的資源** ・専門的技術者の育成と研修の促進が求められている。

Ⅵ．西部市場の経営展望計画

「Ⅴ．西部市場の現状評価と課題の抽出」での評価と分析を検証し、西部市場の経営展望としての“目指すべき将来像”とその実現のための“基本戦略”を策定する。

（１）目指すべき将来像

「市民に信頼される食肉の流通を目指して」

近年、食肉の安全・安心に対する消費者ニーズが高まっている。これに応えるため、衛生管理の向上と体制を強化し、市民に信頼される食肉の流通拠点としての機能を確固たるものとするとともに、集荷力・販売力が向上する市場を目指していく。

①食肉中央卸売市場としてのさらなる発展

西部市場は、150 万人以上の消費地である神戸市に立地し、全国の食肉中央卸売市場 10 市場の 1 つとして、効率的な流通や公正かつ透明な価格形成の役割を担っている。

さらに、各地からの多くの銘柄和牛や兵庫県産の但馬牛・神戸ビーフの流通拠点として集荷・分荷機能を果たしているが、海外への発信も望まれている。

この流通拠点としての特性を活かしながら、適正かつ健全な運営と衛生管理の向上により、安定的に安心・安全で高品質な食肉を市民・国民に供給し続けることにより、食肉中央卸売市場としてのさらなる発展を目指していく。

②西部市場が担っていく役割

情報受発信拠点

中央卸売市場として、出荷者(生産者)、買参人と実需者(消費者)に対する情報の発信が求められる。これに応えて行くためには、消費者・買参人、生産者のニーズを的確に伝達して行かなければならない。また、このようなニーズや情報を積極的に活用することによる新たな可能性も期待できる。情報の受発信により、市場内取引の公開性や情報拠点としての役割を高め、消費者からの信頼感の獲得へと繋げていく。

集荷・分荷機能の充実

集荷・分荷機能は、中央卸売市場の根幹的な役割である。集荷及び買参人の拡大により、この機能の充実を図る。

食肉の安全・安心・安定供給

食肉の安全・安心・安定供給は、食肉流通の基本であると同時に、最も重要な要素である。安全衛生管理体制の強化と流通環境の変化に柔軟に対応することにより、食肉の安全・安心・安定供給を担い、市民のニーズ・信頼に応えるように努める。

経営基盤の強化

出荷者・買参人及び実需者からの信頼を得る市場として、安定的な運営を図るため、関係者が一体となってそれぞれの経営基盤の強化に努める。

人材の育成

西部市場は、食肉に関する情報がいち早く集まる場所であり、それを取り扱う市場内業者は、食肉に対する専門的な知識と経験を有している。この人材こそが西部市場の資産であり、さらに育成するとともにその知識を発信していく。

（２）基本戦略

今回の経営展望計画の中で、目指す将来像が確立された。
この将来像の実現に向けて、以下の４つの基本戦略を策定し、スピーディに実施していく。

基本戦略１　集荷力の向上

集荷力の向上を図るためには、出荷者にとって西部市場が魅力ある市場であることを認識してもらうことが必要である。
集荷団体と卸売業者との連携のもと、西部市場の持つ優位性を産地に向けて積極的にアピールし、他市場との差別化の強化を図るとともに、市場関係者が協力してさらなる集荷力の向上に向けて努めていく。

（西部市場の優位性）
・西部市場が、神戸ビーフをはじめとする高級銘柄和牛の流通拠点である。
・良質な黒毛和牛を求めて、多くの買参人の参加のもとで、せり場が開かれている。
・観光資源も豊富な大消費地に立地している。

基本戦略２　販売力(分荷力)の向上

買参人は、大手企業から小売店まで多種多様であるため、銘柄和牛をはじめとする魅力的な品揃えを充実していくとともに、部分肉加工部門の活用などにより買参人の拡大と販売力(分荷力)の向上へとつなげていく。

基本戦略３　衛生管理の強化

衛生管理について、これまで BSE 等に対する法規定への対応や、消費者からの放射性セシウム汚染に対する安全・安心のニーズに応えるための牛の全頭検査を行ってきた。
平成 27 年度には、改正と畜場法が施行され新たな衛生基準(HACCP)が導入される。
今後も、これらの衛生管理に関する法規定や消費者のニーズに迅速に対応していくため、市場の関係団体が一体となって体制を強化するとともに、衛生管理の向上に取組んでいく。

基本戦略４　市場の開放

食肉の販売拡大のためには、生産者や買参人が、消費者の安全・安心に対する信頼やおいしさへのニーズを迅速に把握する機会をより多く得られることが望まれる。せり見学、共励会の実施等を通じ、消費者、生産者及び買参人へ市場を開放し、衛生管理の状況や和牛、国産豚のおいしさ、銘柄牛の肉質の違いを体験してもらう機会を設けるなどにより、販売拡大につなげていく。

Ⅶ. 行動計画（アクションプラン）について

（１）行動計画（アクションプラン）の策定について

今回策定した経営展望計画を推進するためには、当計画に基づいた具体的な取り組みを実施していく必要がある。これを実行するため具体的な取組みとして行動計画(アクションプラン)を策定する。

（２）策定方法

経営展望計画の策定方法と同様に、神戸市中央卸売市場業務運営協議会西部市場専門部会において協議を行い策定する。

西部市場経営展望計画
行動計画（アクションプラン）

目指すべき将来像	経営展望計画 基本戦略	項　目	主体
市民に信頼される食肉の流通を目指して	1. 集荷力の向上	卸売業者と集荷団体の連携強化による生産者へのサービス向上	卸売業者 集荷団体
		新規出荷者の発掘及び過去の出荷実績者への再出荷の掘起し	卸売業者 集荷団体
		生体管理の向上のための施設整備	開設者 卸売業者
	2. 販売力の向上 （分荷力）	買参人登録者及びせり参加者の拡大	卸売業者 買参人組合
		需要に応じた供給体制づくり	卸売業者 集荷団体
		食肉の PR	開設者 検査所 卸売業者
	3. 衛生管理の強化	西部市場衛生管理委員会の強化	開設者
			開設者 検査所 卸売業者
			市場関係者
	4. 市場の開放	消費者・生産者・買参人への市場のＰＲ	市場関係者
		市場の開放に向けての施設整備	開設者

行動計画（アクションプラン）	
具体的な実施計画	内　容
西部市場で扱う銘柄牛の情報発信	生産者との意見交換会の充実や試食会などの取組みを行う。 産地主催の肥育部会へ積極的に参加していく。 西部市場で扱う各産地の銘柄牛の取扱状況のＰＲを行う。
共同による産地巡回の促進、拡充	少数頭数でも効率よく出荷できるよう積合せ集荷を推進する。
けい留所整備による生体への低ストレス化の促進	低ストレス化の促進のための改善策を検討し、整備する。
新規登録希望者の把握 せり参加者（買参人）の増進 共励会、部分肉加工施設利用の PR	買参人登録への積極的な営業活動を行う。 買参人への聞き取り・アンケートの実施による掘起し等を行う。 共励会の開催内容や部分肉加工施設活用のＰＲを行う。
需要に応じた頭数の上場	集荷者会議の充実を図り、需要に応じたせり日・上場頭数の向上を図る。
食肉の消費の拡大のため、卸売業者や市の広報媒体を活用しＰＲ	広報誌、パンフレット、ホームページ等により消費者に食肉の安全、安心、おいしさ等の魅力を PR していく。
衛生管理、作業環境の向上のための施設整備の促進	保全計画の精査により、ＬＥＤ照明の導入等、衛生管理、作業環境の向上を図る。
従事者への啓発のための定期的な研修等(資格研修等)の実施 伝染病及び生産ライン不具合発生時の緊急対応の充実	衛生に対する意識向上のため、講習会の開催や作業責任者、衛生管理責任者等の研修内容を充実させる。 定期的に実地訓練を行う等、体制の強化を図る。
ワーキンググループによる各施設等の衛生管理の強化の取組み	日常的な衛生管理対策の強化、向上を図る。 一斉清掃日の設定､衛生関係情報の市場内放送､掲示等の充実を図る。 牛解体ラインへのＨＡＣＣＰ手法の導入及び他ライン等への拡充を行う。
開催イベントの充実等	食肉まつり、地域交流行事、試食会、小学生による模擬せり体験等を行う。
せり中継用設備、見学用パネル表示等の整備	

参考資料

資料 1.　神戸市中央卸売市場業務運営協議会西部市場専門部会の委員名簿

資料 2.　西部市場の市況・上場案内

資料 3.　用語／神戸ビーフ・但馬牛

資料 4.　肉用牛の飼養動向

資料 5.　都道府県別、飼養戸数・頭数（肉用牛・豚）

資料 6.　＜全国＞黒毛和種の飼養頭数と飼養施設数

資料 7.　＜都道府県別＞黒毛和種の飼養頭数と飼養施設数（平成 26 年 9 月末時点）

資料 8.　京阪神 3 中央卸売市場の成牛規格別年間取引頭数とクラスの割合

資料 1.　神戸市中央卸売市場業務運営協議会　西部市場専門部会委員名簿

役　職	区　分	氏名（敬称略）	選出団体の役職等
会　長	学識経験者	小 野 雅 之	神戸大学大学院　農学研究科　教授 （神戸市中央卸売市場業務運営協議会　会長）
副会長	卸 売 業 者	平 井　　力	神戸中央畜産荷受㈱　代表取締役社長 （神戸肉流通推進協議会 副会長）
委　員	消費者代表	玉田はる代	神戸市消費者協会　会長
委　員	買参人代表	米　　米 祐	神戸食肉市場協同組合　理事長
委　員	小 売 団 体	辰巳　真一	神戸食肉事業協同組合　理事長
委　員	集荷者代表	谷元　哲則	全国農業協同組合連合会　兵庫県本部畜産部部長
委　員	集荷者代表	大盛　健作	全国畜産農業協同組合連合会　神戸事業所所長
委　員	市 場 代 表	谷口　惠一	神戸市西部市場連絡協議会　会長
委　員	開　設　者	平松日出雄	神戸市産業振興局中央卸売市場運営本部西部市場場長
委　員	衛 生 管 理	安田　伸二	神戸市産業振興局中央卸売市場運営本部西部市場衛生管理責任者

資料 2.　西部市場の市況・上場案内

西部市場の卸売会社は、セリ開催の毎日、卸売予定数量(上場の案内)、取引結果(市況)をＨＰに公表して、売買取引の公正・公開・信頼の確保に努めている。

神戸市中央卸売市場西部市場／牛枝肉市況

2014年10月6日(月曜日)

販売頭数	めす	去勢
73	19	54

めす	頭数	加重平均	高値	安値
A5	7	4,001	4,487	3,731
A4	8	3,585	3,834	3,213
A3	0	0	0	0
A2	0	0	0	0
A1	0	0	0	0
B5	0	0	0	0
B4	1	3,672	3,672	3,672
B3	0	0	0	0
B2	3	3,067	3,078	3,051
B1	0	0	0	0

去勢	頭数	加重平均	高値	安値
A5	16	3,810	4,050	3,672
A4	22	3,614	3,780	3,208
A3	10	3,193	3,256	3,137
A2	2	3,129	3,143	3,116
A1	0	0	0	0
B5	0	0	0	0
B4	1	0	0	0
B3	2	2,729	3,208	2,052
B2	1	0	0	0
B1	0	0	0	0

神戸市中央卸売市場西部市場／上場のご案内(牛)

2014年10月7日(火曜日)

セリ予定頭数	めす	去勢
72	66	6

出荷者	出荷地	頭数	めす	去勢
JAみえきた	三重県	**6**	6	0
JA伊万里	佐賀県	**12**	11	1
花補佐畜産	徳島県	**4**	4	0
株式会社 内藤畜産	徳島県	**5**	5	0
株式会社肉研ファーム	和歌山県	**5**	5	0
吉冨牧場	山口県	**4**	4	0
宮崎県出荷組合	宮崎県	**13**	13	0
熊本県畜連	熊本県	**3**	3	0
香川銘牛会	香川県	**8**	6	2
柴田畜産	徳島県	**3**	3	0
全農山口県本部	山口県	**2**	2	0
池田　元幸	福岡県	**3**	1	2
肥田畜産	徳島県	**1**	1	0
眉山肉牛出荷組合	徳島県	**3**	2	1

神戸市中央卸売市場西部市場／豚枝肉市況

2014年10月3日(金曜日)

規格	頭数	加重平均	高値	安値
極上	0	0	0	0
上	23	502	502	502
中	13	504	529	502
並	8	493	508	485
等外	1	378	378	378

※加重平均とは、1kgあたりの平均単価をいいます
※各金額とも消費税を含んでいます

神戸市中央卸売市場西部市場／上場のご案内(豚)

2014年10月7日(火曜日)

セリ予定頭数
99

出荷者	出荷地	頭数
高尾牧場	兵庫県	**25**
高尾牧場P	兵庫県	**70**
全畜 播磨農業高校	兵庫県	**4**

資料3.　用語／神戸ビーフ・但馬牛

資料：神戸市　食肉衛生検査所　HPより

神戸ビーフの定義は昭和58年9月に神戸肉流通推進協議会によって定められました。その後、改定がありましたが、一言で言うと「兵庫県内で生まれ育った和牛を、兵庫県下の食肉センターで肉にし、肉の格付が基準以上のもの」ということになります。もう少し正確に言うと次のようになります。

「神戸肉・神戸ビーフ」とは、兵庫県産和牛の但馬牛を「神戸肉流通推進協議会」の登録会員（生産者）が肥育して、本県内の食肉センターに出荷した未経産牛・去勢牛のうち、枝肉格付等が次の事項に該当するもの。

- 肉質等級：脂肪交雑のBMS値No.6以上
- 歩留等級：A・B等級
- 枝肉重量：雌230kg以上470kg以下、去勢260kg以上470kg以下
- 月齢は生後28ヶ月以上60ヶ月以下

「神戸肉・神戸ビーフ」を「ＫＯＢＥ　ＢＥＥＦ」「神戸牛(うし)」「神戸牛(ぎゅう)」と呼ぶことができます（出典：神戸肉流通推進協議会規約）。また、但馬牛とは兵庫県下で生産された黒毛和種(和牛の１品種)で、県外の血統は入っていません。

兵庫県内で年間7万頭弱の牛が処理されますが、神戸ビーフは3千頭程度です。

【参考】　資料：米メディアが発表した「世界で最も高価な9種類の食べ物」

国内では、日本三大和牛の1つとされてる。国外では、2009年には米メディアが選んだ「世界で最も高価な9種類の食べ物」にキャビア、フォアグラ、白トリュフ、金箔、サフラン、金色のタイガーフィッシュ、神戸ビーフ、コピ･ルアク、バニラの一つに選出されるなど、欧米を中心に知名度が高く「Kobe Beef」として知られている。

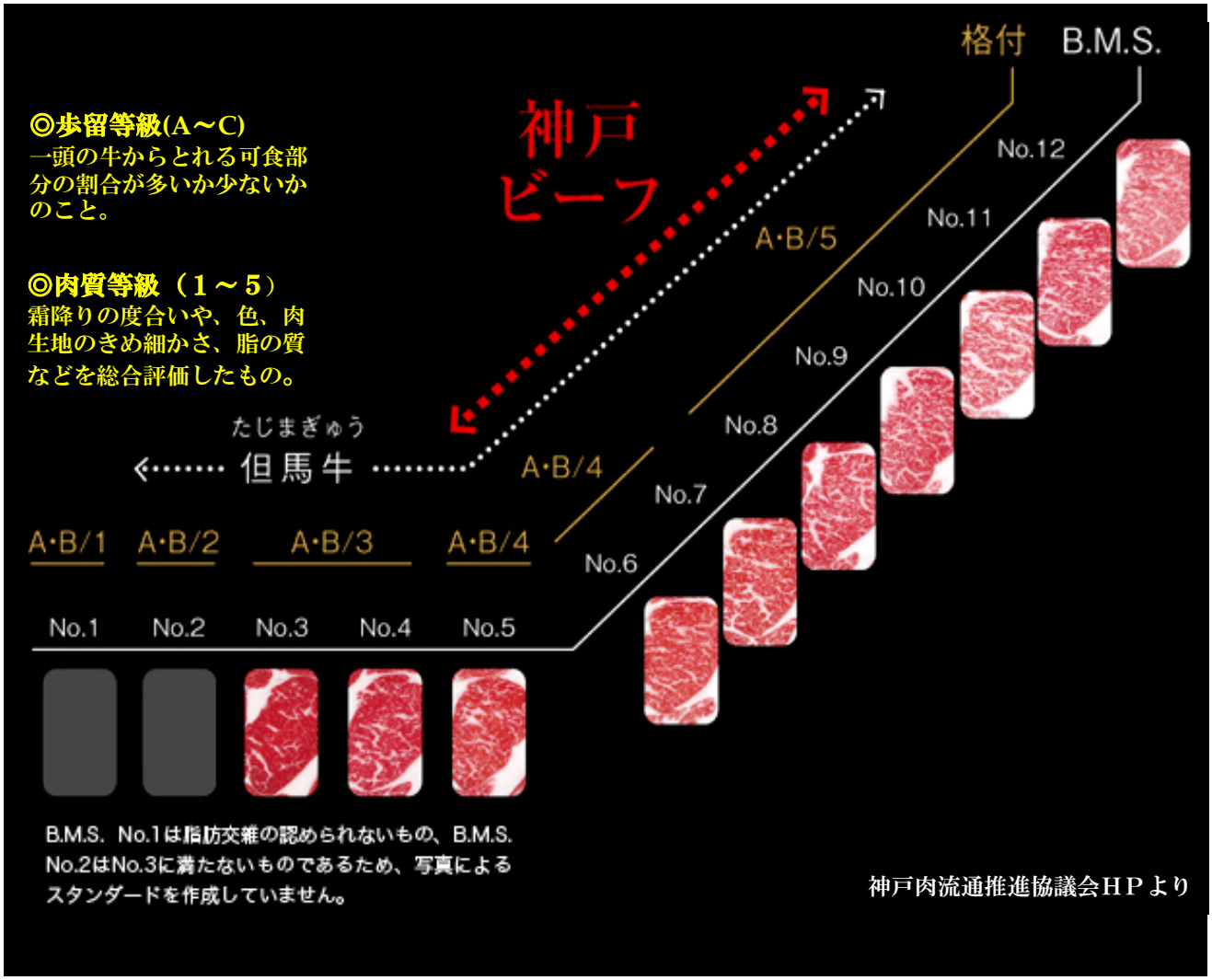
和牛枝肉には、A、B、C、の歩留等級と、5～1までの肉質等級があります。

歩留等級

A:部分肉歩留が標準より良いもの
B:部分肉歩留の標準のもの
C:部分肉歩留が標準より劣るもの

肉質等級

	脂肪交雑	肉の色沢	肉の締まり及びきめ	脂肪の色沢と質
5	胸最長筋並びに背半棘筋及び頭半棘筋における脂肪交雑がかなり多いもの	肉色及び光沢がかなり良いもの	締まりはかなり良く、きめがかなり細かいもの	脂肪の色、光沢及び質がかなり良いもの
4	胸最長筋並びに背半棘筋及び頭半棘筋における脂肪交雑がやや多いもの	肉色及び光沢がやや良いもの	締まりはやや良く、きめがやや細かいもの	脂肪の色、光沢及び質がやや良いもの
3	胸最長筋並びに背半棘筋及び頭半棘筋における脂肪交雑が標準のもの	肉色及び光沢が標準のもの	締まり及びきめが、標準のもの	脂肪の色、光沢及び質が標準のもの
2	胸最長筋並びに背半棘筋及び頭半棘筋における脂肪交雑がやや少ないもの	肉色及び光沢が標準に準ずるもの	締まり及びきめが、標準に準ずるもの	脂肪の色、光沢及び質が標準に準ずるもの
1	胸最長筋並びに背半棘筋及び頭半棘筋における脂肪交雑がほとんどないもの	肉色及び光沢が劣るもの	締まりが劣り、又はきめが粗いもの	脂肪の色、光沢及び質が劣るもの

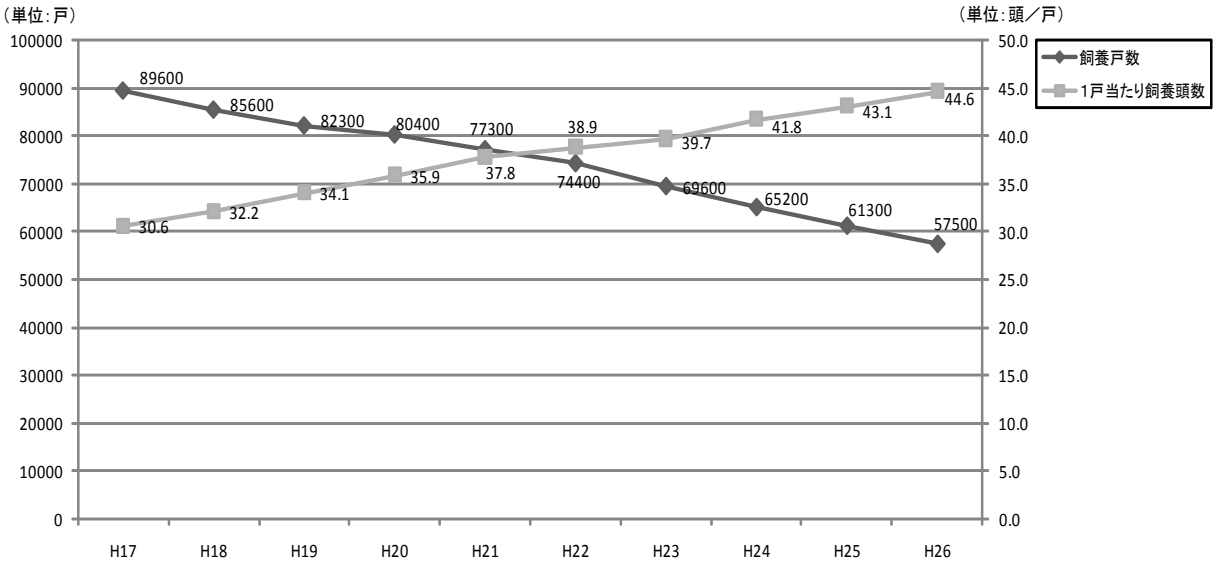


資料 4.　肉用牛の戸当たり飼養頭数の推移

P.7 の“1 戸当たり飼養頭数”で示す肉用牛の飼養戸数と 1 戸当たり飼養頭数の関連性

・1 戸当り飼養頭数（平成 25 年）…2,642,000 頭÷61,300 戸＝43.09 頭／戸

・1 戸当り飼養頭数（平成 26 年）…2,567,000 頭÷57,500 戸＝44.64 頭／戸（前年度+1.5 頭）



飼養頭数(千頭)	2746	2755	2806	2890	2923	2892	2763	2723	2642	2567

資料:農林水産省「畜産統計」

肉 用 牛 （平成26年２月１日調査）

都道府県別
飼養戸数・頭数

都道府県	飼養戸数	乳用種のいる戸数	飼養頭数 合計	肉用種 計	肉用種 肥育用牛	肉用種 育成牛	肉用種 黒毛和種	肉用種 褐毛和種	肉用種 その他	めす 小計	めす 1歳未満	めす 1	めす 2	めす 3	めす 4～5	めす 6～7	めす 8～9	めす 10歳以上
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)
	戸	戸	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭
全国 (1)	**57,500**	5,950	**2,567,000**	1,716,000	772,000	348,600	1,663,000	21,100	31,900	1,104,000	208,600	234,600	136,700	60,600	126,900	124,000	93,400	119,400
北海道 (2)	2,680	990	509,800	176,000	52,800	51,600	167,800	2,940	5,240	122,300	27,700	16,700	11,500	6,020	14,200	19,900	13,700	12,500
青森 (3)	1,050	218	57,000	24,800	8,450	3,840	24,000	10	750	17,300	3,380	3,500	1,580	1,100	2,050	2,240	1,630	1,860
岩手 (4)	5,660	144	91,600	75,500	22,400	19,500	71,000	320	4,220	54,600	10,000	8,400	4,840	3,540	8,010	6,730	5,380	7,680
宮城 (5)	4,230	342	83,900	71,200	26,500	16,900	70,000	650	530	41,300	8,030	7,510	4,910	2,280	4,760	5,040	3,990	4,820
秋田 (6)	1,030	79	18,500	16,700	6,630	3,770	16,100	50	550	10,600	2,280	2,070	920	580	1,290	1,320	950	1,160
山形 (7)	788	50	41,000	39,200	30,700	2,520	39,100	0	20	31,400	4,200	13,600	9,220	470	980	1,060	760	1,090
福島 (8)	2,700	150	54,700	40,700	18,000	7,780	40,600	20	100	27,800	4,440	6,310	3,320	1,290	3,200	3,170	2,560	3,520
茨城 (9)	648	141	52,800	33,100	27,600	1,950	32,900	10	110	14,900	2,340	5,750	2,920	360	840	830	780	1,140
栃木 (10)	1,160	384	87,900	42,400	21,600	8,560	42,300	－	70	22,300	4,740	3,470	2,470	1,270	3,310	2,600	1,900	2,490
群馬 (11)	659	336	62,500	30,000	17,400	4,930	30,000	0	20	16,800	3,130	4,250	2,500	650	1,380	1,630	1,370	1,890
埼玉 (12)	190	107	19,400	9,880	7,000	1,040	9,860	10	10	3,110	440	750	450	180	400	420	210	260
千葉 (13)	345	200	38,200	9,520	4,950	2,030	9,470	－	40	5,380	1,000	1,740	920	220	460	410	300	340
東京 (14)	30	11	750	630	370	40	630	－	0	540	80	220	80	20	50	40	30	40
神奈川 (15)	79	51	4,660	2,240	1,780	190	2,230	－	10	1,030	120	380	200	50	40	70	90	70
新潟 (16)	260	61	12,900	4,830	2,750	770	4,790	－	40	2,230	450	450	270	100	310	250	190	220
富山 (17)	53	26	3,910	2,280	1,380	290	2,280	－	0	1,180	250	230	160	50	110	140	100	140
石川 (18)	90	36	2,800	2,160	1,320	250	2,160	－	－	1,120	270	230	110	50	100	100	90	180
福井 (19)	56	30	2,880	1,520	1,020	250	1,520	－	0	710	130	260	90	40	60	50	40	50
山梨 (20)	69	39	6,180	2,130	1,350	290	2,130	10	0	1,120	230	220	220	50	120	100	80	110
長野 (21)	541	132	24,200	17,400	12,200	1,870	17,400	0	60	9,800	1,570	3,240	2,210	240	620	670	520	750
岐阜 (22)	593	73	33,800	31,200	18,000	4,810	31,000	－	230	15,100	3,000	3,730	1,840	790	1,580	1,510	1,300	1,300
静岡 (23)	161	88	22,500	7,920	6,650	390	7,870	20	40	6,280	1,000	3,280	1,340	100	190	150	100	140
愛知 (24)	395	269	46,700	10,700	7,350	1,000	10,700	－	40	5,560	1,060	1,670	880	210	390	540	290	520
三重 (25)	198	32	26,700	23,300	21,400	730	23,300	10	10	21,700	3,240	11,400	5,900	200	190	240	170	280
滋賀 (26)	101	42	17,200	12,900	11,500	280	12,900	－	10	9,490	1,420	4,700	2,290	110	200	210	180	390
京都 (27)	87	17	6,690	5,820	4,620	480	5,720	－	100	2,950	460	1,290	530	80	150	160	110	170
大阪 (28)	14	9	700	510	490	0	480	－	20	290	40	150	80	10	－	0	0	10
兵庫 (29)	**1,510**	78	**51,900**	43,800	22,100	5,690	41,100	10	2,640	26,200	3,640	6,250	4,310	1,440	3,560	2,600	1,790	2,640
奈良 (30)	55	34	3,610	2,730	2,150	280	2,720	0	0	2,330	370	1,130	600	50	90	50	40	20
和歌山 (31)	54	14	2,720	2,320	1,440	260	2,320	－	0	1,530	290	440	300	40	100	110	70	190
鳥取 (32)	346	69	18,400	10,300	5,570	1,030	10,300	0	10	7,330	1,310	2,390	1,290	300	620	480	340	590
島根 (33)	1,110	35	30,500	23,500	11,100	4,360	22,000	10	1,440	14,700	3,070	3,180	1,730	840	1,670	1,660	1,160	1,400
岡山 (34)	544	88	32,500	12,500	5,750	1,940	12,400	0	30	8,720	1,600	2,040	1,220	400	910	890	660	1,010
広島 (35)	702	57	25,200	12,800	6,380	2,100	12,800	－	10	7,780	1,440	1,670	890	460	930	790	630	1,000
山口 (36)	536	41	17,000	13,000	6,090	2,100	11,600	－	1,350	7,990	1,380	1,440	1,070	460	850	760	670	1,360
徳島 (37)	207	96	23,800	9,280	6,570	710	9,160	110	10	6,060	980	2,470	1,000	220	450	390	290	260
香川 (38)	230	96	19,300	6,890	4,810	640	6,890	－	－	3,920	670	1,410	710	140	280	250	200	260
愛媛 (39)	219	64	14,500	6,030	3,700	850	5,990	10	30	3,790	680	1,370	520	110	270	300	240	310
高知 (40)	185	12	5,160	4,140	2,200	370	2,420	1,720	－	2,490	560	550	310	120	250	260	180	270
福岡 (41)	211	130	24,200	15,700	13,200	360	13,900	120	1,770	6,030	900	910	1,370	660	730	630	390	460
佐賀 (42)	730	26	56,100	54,700	40,900	4,420	54,700	－	10	29,700	4,960	11,200	5,130	810	1,920	2,340	1,580	1,730
長崎 (43)	3,010	114	76,500	64,100	23,600	14,100	63,400	410	320	41,000	7,320	6,570	3,860	2,320	5,260	5,300	4,040	6,350
熊本 (44)	2,850	362	129,800	92,400	38,700	19,000	76,600	14,500	1,270	56,800	10,800	10,400	5,390	3,340	6,620	6,850	5,830	7,560
大分 (45)	1,450	89	51,300	38,200	12,100	9,050	38,200	30	－	26,100	5,160	4,130	2,840	2,080	3,120	3,210	2,400	3,130
宮崎 (46)	7,300	215	250,000	224,400	90,200	57,100	215,900	0	8,430	145,000	31,300	25,500	17,300	11,300	20,100	14,800	11,900	12,800
鹿児島 (47)	9,690	171	333,200	314,400	132,400	67,200	312,200	110	2,020	204,800	39,000	41,600	21,000	12,500	26,500	25,000	17,700	21,500
沖縄 (48)	2,760	101	71,400	70,100	6,890	20,900	69,800	0	370	55,100	8,210	4,480	4,140	3,070	7,570	7,640	6,500	13,500

全国平均 → 1戸当り飼養頭数 2,567,000頭÷57,500戸＝44.6頭／戸
兵庫 → 1戸当り飼養頭数 51,900頭÷1,510戸＝34.37頭／戸

出典）農林水産省 HP 畜産統計調査 畜産統計（平成 26 年 2 月 1 日現在）

豚　（平成26年２月１日調査）

都道府県別

飼養戸数・頭数

都道府県	飼養戸数	子取り用めす豚のいる戸数	飼養頭数 計	飼養頭数 子取り用めす豚	飼養頭数 種おす豚	飼養頭数 肥育豚	飼養頭数 その他	子取り用めす豚頭数割合 (4)／(3)	1戸当たり飼養頭数	1戸当たり飼養頭数(子取り用めす豚) (4)／(2)	対前年比 飼養戸数	対前年比 飼養頭数
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)
	戸	戸	頭	頭	頭	頭	頭	%	頭	頭	%	%
全国 (1)	**5,270**	4,290	**9,537,000**	885,300	47,500	8,020,000	583,300	9.3	1,809.7	206.4	94.6	98.5
北海道 (2)	246	211	626,000	54,400	2,300	540,300	29,100	8.7	2,544.7	257.8	92.8	102.3
青森 (3)	107	75	381,800	31,600	1,010	341,100	8,040	8.3	3,568.2	421.3	93.9	98.3
岩手 (4)	123	103	450,200	43,400	1,690	380,100	25,000	9.6	3,660.2	421.4	89.8	95.4
宮城 (5)	155	137	208,700	20,800	1,300	171,200	15,400	10.0	1,346.5	151.8	93.9	98.5
秋田 (6)	90	70	274,800	28,400	830	220,900	24,700	10.3	3,053.3	405.7	90.9	103.9
山形 (7)	111	94	156,300	13,800	660	133,900	7,940	8.8	1,408.1	146.8	92.5	97.4
福島 (8)	77	65	130,300	10,800	560	102,600	16,300	8.3	1,692.2	166.2	95.1	92.1
茨城 (9)	387	324	559,500	52,900	3,160	489,500	14,000	9.5	1,445.7	163.3	94.9	96.0
栃木 (10)	136	121	393,200	39,800	2,240	318,100	33,000	10.1	2,891.2	328.9	95.8	99.3
群馬 (11)	257	232	613,200	54,100	3,200	539,600	16,300	8.8	2,386.0	233.2	91.1	100.0
埼玉 (12)	119	98	108,500	9,590	560	95,100	3,220	8.8	911.8	97.9	93.0	88.9
千葉 (13)	312	280	681,400	66,800	3,320	586,100	25,200	9.8	2,184.0	238.6	99.7	102.6
東京 (14)	13	7	3,340	180	30	2,910	210	5.4	256.9	25.7	100.0	97.1
神奈川 (15)	57	52	67,000	5,080	380	58,900	2,680	7.6	1,175.4	97.7	96.6	97.1
新潟 (16)	127	111	179,100	17,600	1,240	147,600	12,600	9.8	1,410.2	158.6	87.6	92.4
富山 (17)	18	13	33,000	2,560	190	25,600	4,650	7.8	1,833.3	196.9	85.7	105.1
石川 (18)	18	16	27,300	2,460	170	21,500	3,170	9.0	1,516.7	153.8	85.7	94.8
福井 (19)	8	7	4,820	420	30	3,720	650	8.7	602.5	60.0	100.0	113.4
山梨 (20)	24	21	20,300	2,520	270	17,200	360	12.4	845.8	120.0	92.3	92.7
長野 (21)	82	59	74,300	7,000	440	58,900	7,880	9.4	906.1	118.6	96.5	100.7
岐阜 (22)	41	33	99,100	8,360	350	87,700	2,740	8.4	2,417.1	253.3	89.1	96.6
静岡 (23)	127	109	119,100	12,300	960	92,800	13,000	10.3	937.8	112.8	90.7	98.7
愛知 (24)	219	194	349,900	32,000	1,960	312,800	3,200	9.1	1,597.7	164.9	97.8	99.8
三重 (25)	59	51	121,100	10,300	360	98,400	12,100	8.5	2,052.5	202.0	96.7	101.8
滋賀 (26)	6	4	6,800	570	40	6,190	－	8.4	1,133.3	142.5	85.7	103.8
京都 (27)	15	9	14,100	1,260	130	12,600	40	8.9	940.0	140.0	100.0	102.9
大阪 (28)	8	2	7,010	x	10	6,890	0	x	876.3	x	100.0	113.6
兵庫 (29)	**32**	23	**21,600**	1,380	110	19,000	1,080	6.4	675.0	60.0	97.0	94.7
奈良 (30)	13	10	6,180	710	60	3,970	1,440	11.5	475.4	71.0	108.3	105.8
和歌山 (31)	11	9	2,990	360	40	2,380	210	12.0	271.8	40.0	91.7	94.0
鳥取 (32)	37	34	64,700	6,220	250	56,500	1,750	9.6	1,748.6	182.9	94.9	94.7
島根 (33)	10	10	36,700	3,400	130	33,000	160	9.3	3,670.0	340.0	90.9	89.7
岡山 (34)	24	20	40,200	3,370	200	32,300	4,350	8.4	1,675.0	168.5	96.0	100.2
広島 (35)	32	26	85,900	7,650	280	76,800	1,180	8.9	2,684.4	294.2	100.0	100.7
山口 (36)	15	13	22,800	1,740	90	18,600	2,400	7.6	1,520.0	133.8	100.0	120.6
徳島 (37)	29	25	39,600	3,600	230	35,600	140	9.1	1,365.5	144.0	78.4	85.2
香川 (38)	32	26	37,600	3,550	220	27,100	6,700	9.4	1,175.0	136.5	91.4	98.2
愛媛 (39)	100	80	202,500	17,400	850	170,800	13,500	8.6	2,025.0	217.5	91.7	96.5
高知 (40)	18	18	28,000	2,700	160	25,000	100	9.6	1,555.6	150.0	100.0	104.5
福岡 (41)	60	43	82,500	7,240	360	67,600	7,350	8.8	1,375.0	168.4	100.0	104.2
佐賀 (42)	54	51	83,100	7,950	420	72,700	1,940	9.6	1,538.9	155.9	88.5	94.6
長崎 (43)	116	99	217,800	17,000	1,000	198,700	1,120	7.8	1,877.6	171.7	89.2	100.6
熊本 (44)	241	215	304,000	27,400	1,930	258,300	16,400	9.0	1,261.4	127.4	98.4	98.4
大分 (45)	60	50	145,300	13,000	510	125,600	6,230	8.9	2,421.7	260.0	87.0	94.6
宮崎 (46)	532	409	838,800	80,100	4,460	714,000	40,300	9.5	1,576.7	195.8	98.9	100.1
鹿児島 (47)	637	451	1,332,000	126,600	6,710	1,059,000	140,300	9.5	2,091.1	280.7	95.6	97.1
沖縄 (48)	276	184	234,000	24,700	2,110	151,900	55,200	10.6	847.8	134.2	96.8	94.8

全国平均　→　1戸当り飼養頭数　9,537,000頭÷5,270戸＝1,809頭

兵　　庫　→　1戸当り飼養頭数　21,600頭÷32戸＝675頭／戸

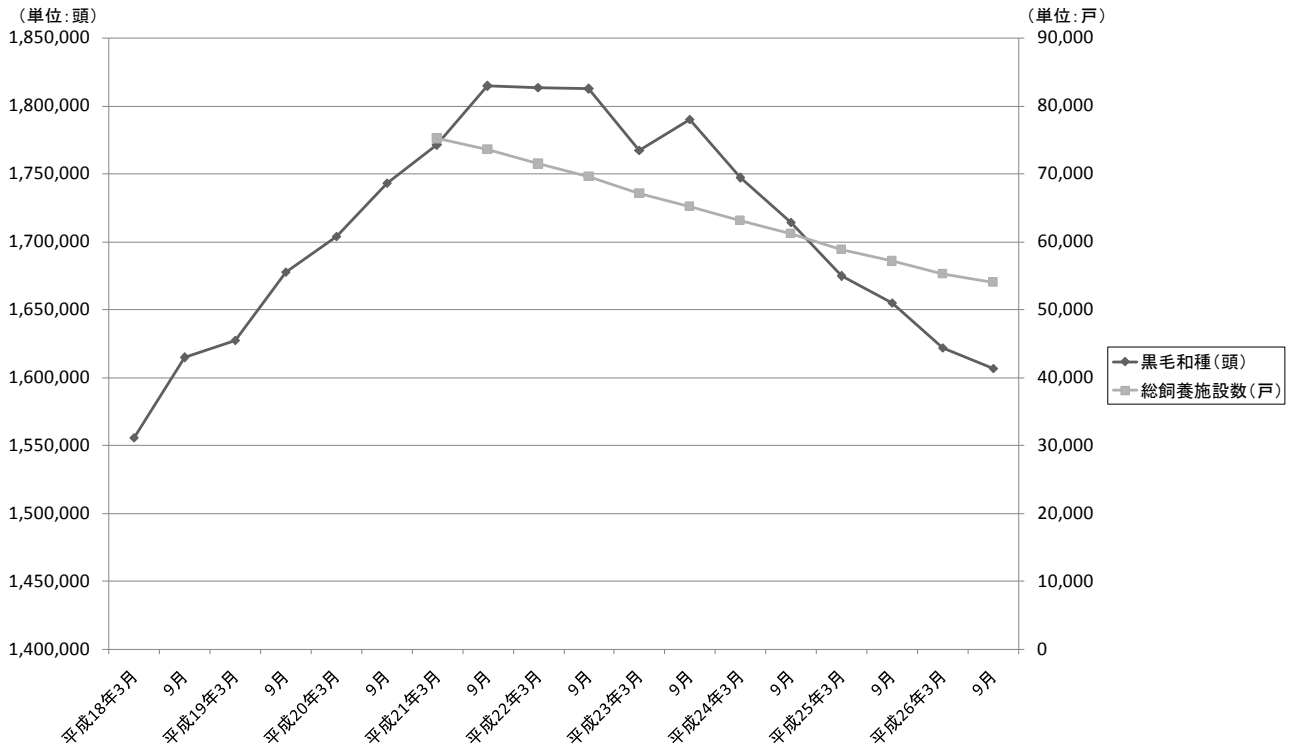
出典）農林水産省 HP　畜産統計調査　畜産統計（平成 26 年 2 月 1 日現在）

資料 6.　＜全国＞黒毛和種の飼養頭数と飼養施設数

（単位：頭）　（単位：戸）

年月	黒毛和種			総飼養施設数
	雄	雌	計	
平成18年3月	531,025	1,024,367	1,555,392	－
9月	562,481	1,051,886	1,614,369	－
平成19年3月	561,763	1,065,457	1,627,220	－
9月	583,628	1,093,816	1,677,444	－
平成20年3月	590,294	1,113,533	1,703,827	－
9月	608,354	1,134,447	1,742,801	－
平成21年3月	616,642	1,154,211	1,770,853	75,133
9月	639,729	1,174,595	1,814,324	73,547
平成22年3月	633,060	1,180,054	1,813,114	71,436
9月	631,887	1,180,387	1,812,274	69,576
平成23年3月	612,764	1,154,217	1,766,981	67,082
9月	624,791	1,164,933	1,789,724	65,153
平成24年3月	607,612	1,139,166	1,746,778	63,055
9月	594,875	1,119,218	1,714,093	61,121
平成25年3月	578,415	1,095,919	1,674,334	58,789
9月	576,919	1,077,909	1,654,828	57,098
平成26年3月	563,957	1,057,690	1,621,647	55,272
9月	560,543	1,045,872	1,606,415	54,016

資料：独立行政法人家畜改良センター　届出情報の統計



資料 7.　＜都道府県別＞黒毛和種の飼養頭数と飼養施設数（平成 26 年 9 月末時点）

（単位：頭）　（単位：戸）

都道府県	黒毛和種			総飼養施設数
	雄	雌	計	
北海道	52,875	119,230	172,105	2,683
青森県	7,201	17,109	24,310	952
岩手県	19,433	50,569	70,002	5,223
宮城県	29,618	40,119	69,737	3,770
秋田県	5,910	9,970	15,880	971
山形県	7,840	30,998	38,838	784
福島県	12,627	29,318	41,945	2,608
茨城県	18,158	14,308	32,466	616
栃木県	20,399	21,921	42,320	1,034
群馬県	12,951	16,011	28,962	594
埼玉県	6,596	3,126	9,722	156
千葉県	4,284	5,151	9,435	269
東京都	97	517	614	32
神奈川県	1,207	840	2,047	68
新潟県	2,733	2,312	5,045	246
富山県	1,070	1,160	2,230	48
石川県	1,017	1,033	2,050	72
福井県	825	740	1,565	42
山梨県	771	1,076	1,847	61
長野県	8,077	9,476	17,553	509
岐阜県	16,297	15,126	31,423	589
静岡県	1,662	6,242	7,904	134
愛知県	5,029	5,418	10,447	266
三重県	1,731	22,892	24,623	184
滋賀県	3,682	10,094	13,776	94
京都府	2,755	2,728	5,483	91
大阪府	211	260	471	13
兵庫県	**15,117**	**25,839**	**40,956**	**1,436**
奈良県	379	2,227	2,606	41
和歌山県	947	1,433	2,380	48
鳥取県	2,746	7,809	10,555	317
島根県	7,507	14,987	22,494	1,048
岡山県	3,728	8,680	12,408	491
広島県	5,243	7,877	13,120	684
山口県	3,923	7,053	10,976	491
徳島県	3,190	5,865	9,055	164
香川県	2,816	3,798	6,614	190
愛媛県	2,138	3,621	5,759	190
高知県	811	1,416	2,227	85
福岡県	6,802	5,221	12,023	217
佐賀県	24,896	29,153	54,049	726
長崎県	22,311	40,660	62,971	2,878
熊本県	28,924	46,197	75,121	2,323
大分県	9,642	23,196	32,838	1,401
宮崎県	70,178	132,386	202,564	6,818
鹿児島県	89,700	183,729	273,429	9,315
沖縄県	14,489	56,981	71,470	3,044
全国	560,543	1,045,872	1,606,415	54,016

資料：独立行政法人家畜改良センター　届出情報の統計

資料 8.　京阪神 3 中央卸売市場の成牛規格別年間取引頭数とクラスの割合

（単位:頭）

規格別 / 畜種別	合計	5			4			3			2			1			和牛 A-5,4・B-5,4 クラスの割合
平成25年度（頭数）	ランク	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	
	14,625	3,012	52	0	5,913	534	4	3,066	776	4	778	435	12	2	19	18	
和牛	14,589	3,012	52	0	5,911	529	4	3,062	764	3	778	427	8	2	19	18	65.0%
乳牛	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
交雑種	36	0	0	0	2	5	0	4	12	1	0	8	4	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【神戸／西部市場の成牛規格別年間取引頭数：14,625 頭】

出典）平成 25 年度版　神戸市中央卸売市場　年報

（単位:頭）

規格別 / 畜種別	合計	5			4			3			2			1			和牛 A-5,4・B-5,4 クラスの割合
平成25年（頭数）	ランク	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	
	34,631	2,957	189	4	6,636	2,276	149	3,576	6,046	1,477	1,275	5,897	3,969	1	42	137	
和牛	17,674	2,943	149	0	6,431	992	3	3,358	1,148	13	1,228	1,353	25	1	15	15	30.4%
乳牛	3,218	0	0	0	0	1	1	0	25	35	0	899	2,129	0	20	108	
交雑種	13,739	14	40	4	205	1,283	145	218	4,873	1,429	47	3,645	1,815	0	7	14	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【大阪／南港市場の成牛規格別年間取引頭数：34,631 頭】

出典）平成 25 年　中央卸売市場南港市場　年報

（単位:頭）

規格別 / 畜種別	合計	5			4			3			2			1			和牛 A-5,4・B-5,4 クラスの割合
平成25年度（頭数）	ランク	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	
	12,590	2,307	29	0	4,743	198	2	2,430	677	50	666	1,169	295	0	16	8	
和牛	10,919	2,306	28	0	4,724	146	0	2,402	261	0	656	363	13	0	16	4	57.2%
乳牛	227	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	131	90	0	0	3	
交雑種	1,436	0	1	0	17	50	2	27	413	49	10	674	192	0	0	1	
その他	8	1	0	0	2	2	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	

【京都／第二市場の成牛規格別年間取引頭数：12,590 頭】

出典）平成 25 年度　京都市中央卸売市場第二市場　年報

神戸市中央卸売市場西部市場経営展望計画
発行　神戸市産業振興局中央卸売市場運営本部西部市場
〒６５３-００３２　神戸市長田区苅藻通７丁目１－２０
電話０７８-６７１-１５９３　fax０７８-６７１-４４１１
ＨＰ　http://www.city.kobe.lg.jp/information/institution
/market/ichiba/s_ichi/index.html
神戸市広報印刷物登録　平成 26 年度第　４２６　号
（広報印刷物企画　Ａ－６　類）

United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

City of Design
KOBE

Member of the UNESCO
Creative Cities Network
since 2008

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。